

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書(第11号)

2018年度

就実大学
就実短期大学

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書(第11号)

2018年度

就実大学
就実短期大学

ごあいさつ

副学長兼産学官地域連携センター長

杉山 慎 策

国内の景気の拡大は 2019 年 1 月時点で戦後最長を記録したとされ、大企業を中心に企業収益も過去最高の水準に達するなど、不安定な海外要因を抱えながらも国内経済は好調が続いているといわれています。

しかしながら中小企業部門や地域経済の実情に目を転じると、そうした実感は全く窺えないばかりか、少子高齢化や基幹産業の衰退などに起因する地域経済の構造的な脆弱性がますます明らかになりつつある状況といえます。

ことに地方の人口減少は深刻で、地方圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県以外)においては 2000 年から 2015 年の間に若者(15～29 歳)人口は、532 万人(約 3 割)減少し、出生数は 17 万人(約 2 割)減少しています。しかも、この減少傾向は今後さらに強まるものと予測されています。

人口減少は潜在成長力の大きな制約要因となるため、従来のように公共事業などの財政移転や企業誘致など外生的で画一的な政策手段で地域を支えていくことは困難になっております。政府が取り組んでいる「ローカル・アベノミクス」の成果が期待されるようですが、基本的には地域が自らの手で自立的・持続的な経済・社会を構築していくことが不可欠な時代だと言えましょう。

新たな産業や雇用を創出して、経済の自立化を目指すには、それぞれの地域が固有の地域資源に立脚しつつも、ヨーゼフ・シュンペーターの言う「イノベーション」を地域に広く巻き起こしていく必要があります。岡山県では真庭地域の木質資源を多面的に活用するバイオマスタウンの取り組みや新見市や総社市など各地の六次産業化の動きがその代表例と言えましょう。

地域の資源や課題は、その歴史、文化を反映してそれぞれ独自のものがあります。従って、これからの地域づくりは、地域で培われてきた技術や経験、大学など高等学術機関が有する専門的知見や人材育成機能など地域の産学官民が協働しながら推進していくことが重要です。

大学においては 2006 年の教育基本法改正により、こうした「社会貢献」は教育・研究と並んで「大学本来の使命」として位置づけられており、今後大学による地域創生への主体的参加が本格化するものと考えられます。

就実大学におきましても、「産学官連携」や「地域連携」を全学的に推進する観点から平成 27 年度に産学官地域連携センターを設置し、平成 28 年度には産学官連携の「コーディネーター」を配置するなど、地域に開かれた大学として地域連携の体制整備を図ってまいりました。

また、瀬戸内市、笠岡市、岡山市中区、和気町や岡山県中小企業団体中央会、山陽新聞社、トマト銀行など行政機関、企業、団体などと連携協定を締結しており、今後様々な地域づくり事業を展開していきたいと考えております。

平成 30 年度には「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一貫として、笠岡市において本学経営学部教員による中小企業経営者支援セミナーを実施しました。

さらに地域企業・金融機関との連携を図るため「岡山県しんきん合同ビジネス交流会」(岡山市)や「しんくみビジネスマッチング」(笠岡市)などの産学連携活動に積極的に参加しました。

今後とも地域と手を携え、ともに歩む「就実」として、地方創生を担う人材の育成、大学のシーズを活用した地域づくりへの参画や地域課題の解決に資する専門的支援などを積極的に行って行きたいと考えております。

皆様の多大なご支援とご協力をお願い致します。

目 次

ごあいさつ	1
就実公開講座	5
学科・研究所・センター等主催事業	33
出前授業	45
学外組織との連携・協働	51
各種学外委員会の応嘱	73
講師の派遣	85

就 実 公 開 講 座

前期講座テーマ

「歴史の中の女と男」

(平成 30 年 6 月 2 日～7 月 7 日)

現代社会における「性別」の意味とは

人文科学部 総合歴史学科 准教授 中塚 朋子

〔概要〕

「女」と「男」の境界を線引きしているのは、人びとが関わりあう私たちの社会である。本講座では、「性同一性障害」をめぐる現象を中心に、性別を「女」と「男」に二元化する社会のあり方や「性別」の現代的意味について考察することをねらいとした。

1. フェミニズムの視点から学ぶ

性別をめぐる現象を考える上で、なぜ、いまフェミニズムの視点が注目されているのか。映画『ハリー・ポッター』で知られる、俳優のエマ・ワトソン氏が、UN Women 親善大使として国連でフェミニズムについて語り、フェミニストとして活動していくとスピーチしたことは記憶に新しい。

フェミニズムとは、男女の平等を目指した「女性解放のための思想や実践」のことである。フェミニズムの歴史や主張を学び、理解することで、女性に対する差別や抑圧を考えるだけでなく、男性やさまざまなマイノリティの抱える困難について考察を深める機会や視座を得ることができる。

フランス革命後に「フランス人権宣言」が表明されたが、「人」や「市民」という言葉は、事実上「男性」や「男性市民」をさし、「女性」の権利は保証されていなかった。市民としての権利を持たないことによって、女性たちは地位・権力・資源配分において相対的に劣位に置かれ、周囲の男性たちに依存せざるをえない状況がもたらされた。そうした事態にたいして疑問を呈し、異議申し立てを行うなど、女性が男性と同等の市民権を求める思想や運動として、フェミニズムが登場した。

フェミニズムは、その時期と特徴から、3つの波（ムーブメント）があるとされる。「第一波フェミニズム」は、およそ1860年代から1920年頃までの初期の女性運動を指し、婦人参政権運動・女性差別撤廃など、法律や制度上の平等などを求めた運動（実践・理論）である。いわゆる公的な領域における性別間の平等を主張する運動で、「市民権」や「参政权」など男性と同等の権利を獲得するための訴えや、「財産権」の請求、労働の権利としての「女性保護」や「公娼制度」の廃止など、法的な権利の獲得にかかわる闘争がおもな活動であった。

それから半世紀を経て、1960年代後半から70年代に再び世界的に起きた女性運動を「第二波フェミニズム」と呼ぶ。この時期のフェミニズムは、性別によって役割を期待したり決定するような人々の意識や慣習を批判し、個人を拘束する「女らしさ」や「男らしさ」などの観念から個人の解放を主張した点が特徴である。権利の拡張や女性保護にとどまらず、女性性や男性性、セクシュアリティのありかたなどを根本的に問い直すことを主張した。公的領域のみならず、私的領域における性別役割や性暴力を家父長制社会の問題として指摘したことが特徴である。また、「ジェンダー」という言葉が、従来の性別観や社会規範など、「性別」をめぐるさまざまな現象を問い直す概念として、運動や学術的な分野で用いられるようになったのも、第二波フェミニズムの時期である。

第二波フェミニズムの運動の成果としては、1979年に「女性差別撤廃条約」が国連で採択されたことが挙げられる。各国は、この条約に批准するために国内の法制度や教育制度を整備していった。一方で、差別撤廃条約（第4条）では、現実の不平等な状況を克服するため、暫定的な特別措置（ポジティブ・アクション）をとることを認めている。

「第三波フェミニズム」と呼ばれる近年の運動や研究では、多様な主張が見られる。これらの主張は、従来のフェミニズムが、「白人」・「中産階級」・「異性愛」・「健康」な女性たちの経験や価値観を前提としてきたという批判が背景にある。いわば、人種や民族、性的指向や性自認、階級、病気や障害の有無などの要素を考慮し、一枚岩ではない多様な立場にある人々の経験を運動に反映させる動きである。「多様性」（ダイバーシティ）への着目は、これらの運動とも連動しており、少数派の人々に対する差別や偏見の解消とともに、基本的人権の保証が喫緊の課題となっている。

2. 「性別」とは何か？

そもそも、「性別」とは社会においてどのような働きをしているのか。「男」と「女」という区分を前提とした性別観に基づき、さまざまな制度や規範を構想する社会を「性別二元制社会」と呼ぶ。典型的な男性型や女性型ではない身体のあり方や振る舞いは、「正常」という状態から外れた「異常」とみなされ（あるいは「例外」や「逸脱」として取り扱われる）、からかいや差別の対象とされてきた。また、「異性愛中心主義」を基本とする教育や社会が、セクシュアル・マイノリティのアイデンティティ構築を困難にさせてきた。「同性愛」や「性同一性障害」をめぐる現象は、その典型である。

「同性愛」は、宗教的な教義で禁忌とされたり、法や制度など性をめぐる規範によって統制された。さらに、国際的な疾病分類や精神障害の診断基準において「精神疾患」として位置づけられ「医療化」された。しかし、性的指向を個性とみなす社会意識の変化により、「同性愛」は疾病分類や診断基準から外され「脱医療化」した。

「性同一性障害」もまた、国際的な疾病分類や精神障害の診断基準に明示されるなど「医療化」された事象の一つである。日本では、1990年代以降に「性同一性障害」の医療化や法制化が進んだ。医療行為を公的に受けることができるという意味では、当事者にとって「医療化」が利点となる場合もある。だが、「疾患」や「障害」として扱うことで、性別をめぐる現象を個人化させてしまう。

しかし、「性同一性障害」についても、近年、「脱医療化」の動きが見られる。2013年に、アメリカ精神医学会は「精神障害の診断基準と統計の手引き」第5版（DSM-V）で、人権的配慮や疾患としての語義を軽減させることを目的に「Gender Identity Disorder」（性同一性障害）を「Gender Dysphoria」に変更した。それを受けて、日本精神神経学会は「Gender Dysphoria」を「性別違和」と邦訳し、公表した。世界保健機関も2018年に「国際疾病分類」の改訂で（ICD-11）、「Gender Incongruence」という診断名に変更することを予定している。「Gender Incongruence」の邦訳に向けての議論では、「性別不一致」や「性別不調和」、「性別不適合」などの案が出されている。

3. 「性同一性障害」の「ショウガイ」とは？ ～「性別」という制度～

「障害学」という分野では、「ショウガイ」に2つの捉え方（モデル）がある。個人の側に困難の原因があると考え「個人モデル」と、社会の側に困難があると考え「社会モデル」である。「性同一性障害」を「個人モデル」ではなく「社会モデル」で捉え直すと、「性別」という分類こそが「社会的障壁」となって人々に困難をもたらしていると言える。これまで「個人の側」に原因があると思われてきた性別の問題は、まさに社会の側にその原因があったと言ってもよい。これは、逆に考えると、社会のあり方を変えることにより、その障害は取り除かれるということでもある。

「性別」を分かつ基準は変容しており、それぞれの「性別」に期待されることがらも相対的なものである。私たちの社会で、「性別」は人間を<分類>する制度あるいは規範として機能している。そうした取り決めについて、今後どうあるべきかを、私たちは問われているといえよう。

日本中世の「未亡人」

人文科学部 総合歴史学科 教授 苺米 一志

第2回目となる本講座は、日本中世における未亡人をテーマとし、後家・後家尼と呼ばれた女性たちが、夫の亡き後にどのような活動をしたのかについて、三人の女性をとりあげて解説した。

源実朝の妻 本覚尼

1219年、甥の公暁に暗殺された源実朝に妻がいたことは案外知られていない。彼女は坊門信清の娘で、その姉妹からは時の天皇や上皇の後となった女性も輩出している。京都と鎌倉の関係を友好的に保つことを望む後鳥羽上皇の肝いりで婚姻の儀が進められ、1205年に正式な婚姻が成った。その後14年間、彼女は実朝と仲睦まじく暮らし、特に姑の北条政子との関係も良好であった。しかし、1219年に実朝が暗殺されると、彼女は翌日に出家し、しばらくして京都に帰ったようである。出家名を、本覚尼という（実名は分からない）。

これ以後、後鳥羽上皇と鎌倉との関係は次第に悪化し、1221年に承久の乱を迎える。彼女はこの頃、京都の西八条、現在の六孫王神社のあたりに持仏堂を設けて、亡夫の菩提を弔っていた。すでに北条政子や安達氏・葛山氏などにより、実朝の菩提を弔うため高野山に金剛三昧院が創建されていたが、それと平行して彼女は実朝の後家として堂を営んだのである。西八条の地は、六波羅と同じくかつては平清盛の邸宅跡で、源平合戦の後に源頼朝の所有となっていた。彼女はこの土地を継承し、北条政子から荘園（伊予国新居荘）の寄進を受けて、堂を経営した。ここには実朝の遺影が置かれ、紀伊国の御家人である湯浅氏が周辺を警護していた。六波羅探題が京都における軍事・警察の拠点であるとする、西八条の堂は京都にいる御家人たちの精神的な拠点でもあった。

本覚尼が残した二通の置文（遺言書）からは、将軍の妻としての気高さと意志の強さがうかがえる。彼女は西八条の堂に廻心房真空という僧侶を招き、ここを西八条遍照心院として本格的な寺院に作り変えた。廻心房真空は彼女の従兄弟にあたり、また実朝の菩提を弔う金剛三昧院の長老でもあった。遍照心院は、戒律を基盤として三論・真言を学び、念仏も行なう諸宗兼学の寺院となった。境内は治外法権をもつ特殊な空間であり、犯罪者が駆け込んだとしても、鎌倉幕府による捕縛すら拒むことが出来た。また遍照心院が幕府に訴訟を行なう際には、ただ一度だけの訴訟に止めよ、とされている。三度の書類提出が出来るという幕府の法制度を超越する命令であり、彼女が夫の亡き後も幕府から破格の待遇を受けていたことが分かる。

史上唯一の女性上皇 広義門院寧子

西園寺公衡の娘である寧子は、後伏見上皇の後となった人物である。1306年に上皇の後宮に入り、1309年には上皇の弟である花園天皇の義理の母親（准母）ともなった。

これ以前、天皇家は持明院統と大覚寺統に分裂しており、鎌倉幕府の斡旋で両統から交互に天皇・上皇を出す取り決めが結ばれていた。しかし、その中で自己の家系（大覚寺統）に皇統を伝えることが出来ないのではないかと危惧する後醍醐天皇によって、正中の変（1324）・元弘の変（1331）が起こる。後醍醐天皇は隠岐国に流されたが、1333年に反幕府勢力の巻き返しにより、事態は急変する。彼女の子息である量仁親王はすでに光厳天皇となっていたが、廃位となり、持明院統の皇族は

近江国で後醍醐勢力により捕縛された。彼女も北山の邸宅で不安な時期を過ごしたが、足利尊氏の後醍醐政権からの離脱、北朝および室町幕府の成立によって、子息である光厳上皇の院政も軌道に乗った。彼女は上皇の実母（国母）として、幕府からも重視される存在となった。

1352年、南朝の後村上天皇により、子息の光厳・光明上皇、孫の崇光上皇、姻戚にあたる直仁親王が大和国に拉致されるという事件が起こった。いまだ次の天皇が決まっていない時期であり、天皇の指名は上皇が行なう慣例であった。上皇がいないということは、天皇の指名が行なえないということでもある。これによって、半年間にわたる史上空前の天皇空位時代が訪れた。特に人事関係の手続きは、すべてが停止されるという事態に陥った。対応に苦慮した室町幕府は16日間にわたり寧子を説得し、彼女が上皇の立場となって次の天皇（後光厳）を指名することとなった。女性であるという点でも唯一であるが、皇族出身でないという点でも彼女は史上唯一の存在である。

孫の後光厳天皇が即位した後も、彼女は皇室領荘園のすべてを掌握するなど、北朝および室町幕府においても重要な政治的存在であり続けた。

女戦国大名 赤松（細川）洞松院尼

洞松院尼は、応仁の乱における一方の当事者・細川勝元の娘で、政元の姉にあたる人物である。細川政元は室町幕府の管領であり、実質的には時の最高権力者であった。1493年3月、突然に洞松院尼と赤松政則の婚姻が発表された。

赤松政則は播磨・備前・美作三ヶ国を領する守護大名であり、この唐突とも言える婚姻には、重要な政治的意味が含まれていた。4月20日の婚姻の二日後、細川政元により10代将軍義隆がすげ替えられるというクーデタが起こった。婚姻は明らかに政略結婚であり、有力な守護大名である赤松氏を細川政元が抱き込もうとしたものと解釈される。

このクーデタを明応の政変と呼ぶが、これにより堀越公方・足利政知の子息が11代将軍・義隆となった。追放された義隆は初め北陸に落ちのび、やがて周防・長門の守護大名である大内氏の支援を受けることになる。1496年、赤松政則は死去し、養子である義村が家督を継いだ。しかし、この不安定な時期に乗じて、家臣の浦上氏が二派（則宗派と村国派）に分かれて領国の取り合いを開始した（播磨東西取合合戦）。この争いは1499年、親族の赤松政秀によって調停されるまで続くが、この間に洞松院尼はじわじわとその政治的地位を確立していったようである。

1502年に浦上則宗が死去すると、その直後から彼女による印判状が発給され始める。女性の印判状の発給は史上珍しく、かつ戦国大名のものとしては北条氏の虎の印判状よりも早い時期に発給されたものになる。表面上は赤松義村の仰せを受けた仮名書き奉書の形態をとっているが、むしろ彼女が上皇のような立場で自己の意志を示したものと解釈される。

1507年に弟の政元は暗殺されるが、実家の権力とは無関係に、赤松氏家中において洞松院尼の権力が確立していく。前将軍・義隆と大内義興・細川高国が政権を奪回すると、義隆・細川澄元派である赤松義村は、義隆の子・亀王丸（のちの義晴）を預かっていたこともあり、孤立して窮地に陥ることになる。1512年6月、洞松院尼は自身で摂津尼崎に赴き、細川高国と直接に面会して、和平協定を結ぶことに成功した。さらに1518年、家臣の浦上村宗が謀反を起こすと、驚くべきことに彼女は村宗側について義村を攻撃し、1520年には孫の晴政に家督を継がせ、これを傀儡化した。翌年には、義村を室津に暗殺している。この後、1522年の山名誠豊による播磨侵攻では、再び二派に分かれて争っていた浦上氏を糾合してこれを撃退した。新将軍・義晴の信任も厚く、その発給文書は洞松院尼が宛名となっている。赤松晴政が成人した後も、彼女の権勢は健在であった。

近世都市大坂における庶民の暮らし

—孝子褒賞・忠勤褒賞から考察するライフサイクル—

人文科学部 総合歴史学科 講師 三田 智子

はじめに

江戸幕府が社会に広く「忠孝」を奨励したことはよく知られている。とくに18世紀後期の寛政改革では、道徳規範の確立が目指され、全国規模で親孝行な子・忠義な奉公人への褒賞が実施されるようになった。その褒賞の際には、褒賞を受ける個人の来歴（いかに親孝行であるか、いかに忠義者であるか）が詳細に記録されており、これらは庶民の生活や暮らしを知ることができる貴重な史料である。ここでは近世の大坂で作成された褒賞記録を検討し、男性と女性のライフサイクルや家族のかたちを解明した成果を紹介し（塚田 2017）、彼らの生活がどのように成り立っていたのか、どのような問題を含んでいたのかを考えてみたい。

1 江戸時代の都市・大坂の概要

江戸時代の大坂は、幕府の直轄都市として大坂町奉行が支配する都市であった。人口は江戸時代を通じて30万人～40万人を維持しており、国内では江戸に次ぐ巨大都市である。

江戸時代の都市の内部は、武家地・寺社地・町人地という区別があり、大坂の場合、町人地には約600の町（ちょう）が存在した。この町は、道路を挟んだ両側の土地区画から構成され、そこに居住する人びとの共同体としての性格を強く有した。道路に面した表通りには商店が建ち並ぶのに対し、道路に面さない部分（いわゆる「裏」）には長屋がおかれ、多くの借家人が居住していた。「裏」は職人や行商、日雇いなど様々な職種に従事する人びとが暮らす、都市における庶民の居住空間であった。大坂では、各町の代表者は年寄と呼ばれており、町に関わる様々な業務を担っていた。

大坂の町人地は、全体が3つの組に分けられており、各組を通して、大坂町奉行所が発布するお触れなどは町に伝達された。各町では、これを受け取った年寄が町内全体に知らせていた。このように、幕府による都市支配は、その末端に住人による共同体を前提に成り立つものであった。

2 大坂での孝子褒賞・忠勤褒賞の事例

大坂では、18世紀末以降に孝子褒賞・忠勤褒賞が本格化した。幕末までに孝子褒賞は330件余、忠勤褒賞は120件余確認でき、これらはお触れとして町中に伝達されている。

お触れの内容を検討すると、褒賞を受ける共通点と条件が伺える。

まず共通点であるが、褒賞を受ける孝子の年代は、10代などの若者と、中高年の二つが存在する。このうち若年の孝子の場合、幼少期に親や祖父母など主に生計を支える存在が病気になる、または死亡するなど、過酷な状況に陥るが、孝子が必死に働いて生活を支え、孝行に努める、という共通点が見出せる。中高年の孝子は、年老いた親を抱えながら過酷な状況に陥り、必死に働きながら、孝行に努めるというパターンである。忠勤の場合、奉公先の商家などが主人の病気や死亡などで経営不振となり、困難な状況に陥るが、奉公を続け、主家を立て直す（あるいは、どん底の主家をどこまでも支え続ける）というものである。

こうした共通点に加え、いくつかの条件も存在したようである。孝子の場合、①家業に精を出す

などして、家計を懸命に支える、②孝行の対象である父母の存命中には、看病や介抱に努める、③そうした対象が死んだ後は、葬式・年忌法要などを丁寧に行う、④家賃の滞納や借銀がない、以上の四点であり、忠勤の場合は、主家に対する同様の働きが求められた。これらが、幕府や藩が「孝行」・「忠勤」の手本とみなしたものである、といえよう。

ここで、孝子褒賞の事例として、1796年に褒賞されたゆき(22才)の経歴を紹介しておこう。i ゆきの父源七は借家住まいで、日雇い働きをしながら、女房きよと娘ゆきの3人暮らであった。ii 1783年からきよが眼病となり、9才のゆきが家事を助けながら介抱した。その後きよは回復し、1789年にとくを出産。iii 1789年に、源七が病にかかり、きよの眼病も悪化。ゆきは両親の介抱と妹の育児に努め、縫仕事や洗濯物を引き受け、生計を一人で支える。iv 1791年10月の火事の際には、ゆきは歩けない父を背負い、目の見えない母に妹を背負わせ、逃げのびる。v 1791年12月父が死に、ゆきは檀那寺に依頼して葬礼を行う。その後1周忌・3回忌も手厚い供養を行う。vi 1792年11月、困窮をみかねて、縁者がゆきに婿養子(伝兵衛)を世話する。だが伝兵衛は病で十分働くことができず、翌年2月離縁。vii 1793年8月、再び縁者の世話で、将来的には婿養子に入る約束で伊右衛門がゆき方に同居し、生活の面倒をみることに。1795年9月にゆきは次郎吉を出産するが、伊右衛門が商売で失敗したため、ゆきが次郎吉を引き取り、伊右衛門と別れる。viii ゆきは現在、昼は縫仕事・洗濯物仕事に雇われ、夜は帆布を刺して家計を支える。病気の母に心を配りながら、次郎吉を養育し、妹にも内職の手業を教えている。

3 孝子褒賞の世界を構造的に捉え直す

こうした記録から、読みとれる問題を二点にしぼって考えておきたい。

一つめは、病気や老い、寿命の問題である。ゆきの事例からも明らかのように、一家を支える働き手の病気や死亡、火事などを契機に、都市の裏店に住む民衆は経済的困難に陥る。病気の場合は、収入の減少に加え、病人の介抱・世話という問題も深刻であった。誰にでも起こりうる些細な契機で、過酷な状況に陥る不安定さと当時の民衆は常に隣り合わせであったのである。なお病名が確認できるもののうち、最も多いものは眼病・盲目、ついで中風、精神疾患と思われるものなどである。また、中高年の孝子が見られるように、案外女性は長生きしたようである。たとえば1812年に孝子褒賞をうけたくみは、100才の母と二人で暮らし、働きながらも母の面倒をみている。

二つめは、「女名前(女性名義)」の問題である。実は大坂では、1730年以降、借屋を「女名前」で借りることが禁止されていた。つまり、女性のみ家族では、住居を借りることもできないのである。ゆきのように、家族内で唯一の男性が死去した場合、男の養子をとる、あるいは結婚するなどして、「男の名義人」を確保する必要があった。縁者がゆきに婿を世話したのは、生計維持以上の意味合いがあったものと思われる。一般的に男性の方が女性よりも短命であるが、こうした規制が存在したため、より構造的な問題が存在したのである。

もとより江戸時代には、現在の社会保障にあたる制度は存在しない。そのため、看病・介護・生計維持などの問題は、家族に負担を強いるものであった。庶民にとって「家」を維持し、次代につながることは極めて難しいことであった。褒賞される事例は、いずれもなんとか生活を維持しているものであるが、極めて悲惨な最期をむかえたであろう多くの人びとの存在も想定しておく必要がある。一方で、褒賞記録からは、親戚縁者や居住する町などによる困窮者への扶助は確かに存在した。現代と単純には比較できないが、こうしたあり方から考えるべき点は多いように思われる。

参考文献：塚田孝『大坂 民衆の近世史—老いと病・生業・下層社会—』、ちくま新書、2017年

前近代中国の皇太后と皇后

人文科学部 総合歴史学科 講師 渡 邊 将 智

前近代の中国は、秦（前 221～前 206）の始皇帝の登場以来、皇帝が君臨する王朝によって支配されていた。歴代の皇帝は臣下や民衆に命令を下す際に、制詔と呼ばれる行政文書を用いた。制詔の発布は皇帝の専権事項であった。

中国の皇帝は一夫多妻制であり、正妻は皇后と呼ばれた。皇后は夫である皇帝が崩御して代替わりすると、皇太后の称号を与えられた。皇太后と皇后は時として王朝の政治に関与する場合があった。

前漢（前 206～後 8）の呂后（？～前 180）は高祖（初代皇帝）の皇后である。高祖が崩御した後に皇太后となり、若年の恵帝（第 2 代皇帝）を後見した。恵帝が崩御すると、呂后は幼少の少帝（第 3 代皇帝、劉恭）・少帝（第 4 代皇帝、劉弘）を相次いで擁立し、引き続き後見した。この時、呂后は臨朝称制を行った。臨朝称制とは、皇帝が臣下を謁見する際に、皇太后が皇帝と向かい合って座り、臣下の意見を聞きながら政策を協議し、その結果に基づいて皇太后が皇帝の代わりに制詔を発布する行為を指す。こうした場合、皇帝は親政を行わず、皇太后が国政を代行して制詔を発布した。

清（1616～1912）の西太后（1835～1908）は咸豊帝（第 9 代皇帝）の皇后である。咸豊帝の崩御後に皇太后となり、幼少の同治帝（第 10 代皇帝）・光緒帝（第 11 代皇帝）を後見した。この時、西太后は垂簾聴政を行った。垂簾聴政とは、皇帝が臣下を謁見して政策を協議する際に、皇太后や皇后が皇帝の玉座の後ろに座って国政に関する意見を述べ、その意見を踏まえて皇帝が制詔を発布する行為を指す。皇太后や皇后は着座する時に、自分の姿が臣下から見えないよう御簾を垂らしたり衝立を置いた。そのため、垂簾聴政（簾を垂らして政を聴く）と呼ばれたのである。こうした場合、皇帝は親政を行ってはいしたが、皇太后や皇后の意向を強く反映させる形で制詔を発布せざるを得なかった。

唐（618～907）の武則天（則天武后、624～705）は高宗（第 3 代皇帝）の皇后である。病弱な高宗のもとで垂簾聴政を行い、自分に反発する皇族や有力な大臣など政敵を排除した。高宗の崩御後は中宗（第 4 代皇帝）・睿宗（第 5 代皇帝）を後見し、臨朝称制を行った。武則天は中宗・睿宗を相次いで廃位し、ついには自ら皇帝に即位して周（武周）を建国した。武則天は垂簾聴政を通じて自らの意向を制詔に反映させ、さらに臨朝称制の形式で国政を代行して制詔を自ら発布した。

このように呂后・武則天・西太后は、制詔の発布という皇帝の専権事項に臨朝称制や垂簾聴政を通じて関与し、それによって権力を行使した。彼女たちが振るった権力は、皇太后や皇后の立場にある者がもともと独自に有していたものではなく、皇帝が有する権力を前提とするものであった。前近代中国の皇太后・皇后は、皇帝権力のいわば代行者として政治に関与したのであった。

たたかうインド・ムスリムの女性たち

人文科学部 総合歴史学科 教授 井上 あえか

ムスリム女性は、頭から足まですっぽりとブルカという衣類で身を包んだ姿が象徴するように、今日なお様々な制約の下にある。もちろん非ムスリム世界においても、女性は多くの制約の下にあることは言うまでもないが、ここでは、近代以降のインド世界のムスリム女性を取り上げて、彼女たちは自らの解放のために何とたたかっているのか、そして解放とは何かを考える。

ムガル帝国統治下のインドでは、イスラーム教、ヒンドゥー教、ゾロアスター教など多様な宗教が互いに影響を及ぼしあって共存していた。ところが19世紀、イギリス統治下のインドでは、近代文明に圧倒される中で、これに対抗してインド文明の復興を求める動きが高まる。こうしたナショナリズムの下では、インド的なものとは何か問われ、女性の生き方として固定的なステレオタイプが求められることになった。

民族主義運動の機運が高まると、ヒンドゥーの高位カーストの一部で行われていた寡婦殉死という慣行（サティ）が、インド女性の美徳として賞揚されるようになり、女性の再婚に関する論争も盛んに行われるようになった。さらに、民族の将来を担う子を育てる母親が無知であってはならない、という考えから、いわゆる「良妻賢母」が推奨されるようにもなった。いずれも、イギリスよりも優れたインド、というナショナリズムの言説の一つとして語られたものであり、女性の意思や現実を反映したものとは言い難く、本格的な女性解放論議は独立を待たねばならなかった。そのような中で、ロカヤ・サハーワット・ホサイン(1880-1932年)は、夫を亡くした後、女子校の設立や執筆活動に取組み、ベンガルのフェミニストの先駆けとして知られる。彼女は、男女は平等に扱われるべきであり、女性が遅れているのは女性が教育を受けられないためであると主張した。また女性が外に出たり男性と同席することを禁じたりするパルダの習慣を強く批判する小説を著している。彼女は、いわば寡婦となったことで結婚を介した社会規範から自由になり、独自の活動が可能になった。このような、当時としては際立って独自の社会活動を行ったムスリム女性がいたことは特筆に値するだろう。

現代の南アジアにおいて、ムスリム女性はどのような状況に置かれているだろうか。一人の少女の例を考えてみよう。パキスタン北西部のswatで生まれ育ったムスリムの少女マララ・ユースフザイ(1997年-)は、教師であった父親の下、女子にも男子と同じように教育が必要であるという信念を持ち、高校生の中からSNSを介して「子供・女性の教育」を全世界に訴えていた。当時swat周辺に影響力を持っていたイスラーム主義武装組織パキスタン・ターリバーン運動は、女子教育を否定し、彼女の行動を阻止しようと、度々脅迫的なメッセージを送っていた。マララは脅迫を受けても発信することをやめなかったが、ついに下校途中のスクールバスがターリバーンの襲撃にあい、頭部に銃撃を受けて重傷を負った。幸い、奇跡的に命を取り留め、イギリスの病院に送られて回復をはたした彼女は、のちに国連総会に招かれ、教育の重要性について演説を行った。2014年、彼女はインド人の児童労働撲滅活動家カイラシュ・サティアーアーティとともにノーベル平和賞を受賞した。彼女の受賞は、インド人との同時受賞であったことから、対立するヒンドゥーとムスリムの融和、さらに世界融和を象徴するものにとらえられた。また、ターリバーンの銃撃から回復し教育を受ける権利のために戦い続ける少女であることから、平和への強いメッセージを読み取る

こともできよう。

マララは、その服装や立ち居振る舞いを見れば、パキスタンのごく普通のムスリムの少女である。そして同時に近代的な学校教育や人権などの西欧的価値観をも身につけている。こうした少女はパキスタンでは決して珍しくない。しかし彼女は、ターリバーンの銃撃から生還し、むしろ欧米のメディアで大きく取り上げられ、イスラームあるいはパキスタンという国の後進性と戦い、近代的価値を守るヒロインとして欧米的な視点で象徴化されてしまった。欧米のマスコミにもてはやされることで、マララは本人の意思とは無関係に、イスラームやパキスタンの価値を貶めることに加担する結果となってしまった。その結果、パキスタン国内で地道に女子教育に取り組んでいる多数の人々の中には、むしろマララについて、パキスタンを離れて欧米の立場に立って故国を見下しているのではないかと批判する世論さえある。

次に、元パキスタン首相のベーナジール・ブットー（1953-2007年）を見てみよう。彼女は、パキスタンのズルフィカル・アリー・ブットー元首相（1928-1979年）の長女である。軍事政権後の選挙によりパキスタン人民党党首として、独立後最年少（35才）で、イスラーム諸国初の女性首相となった。アフガニスタンへの関与やターリバーン支援を継続していたため過剰なイスラーム化を防ぐことが出来ず、パキスタンはのちに再び軍政に戻った。ベーナジールは汚職などの訴追を逃れ国外に移った後、帰国したが遊説中、暗殺された。彼女は、パキスタンの政治家が一般にそうであるように、海外に莫大な資産を蓄え、いざとなればいつでも国外へ脱出できた。政治家がいつでも国を捨てて逃げられる、というのはパキスタン国民の不幸である。彼女は、民主政治を確立するには至らなかったが、政界で活躍する現代的な女性像、父から継承した普遍主義・ポピュリズムによって、死後10年を経た今もなお「民主化の英雄」としてのカリスマ性を維持している。

他に女性政治家としては、バングラデシュの独立を果たし国父とされるムジブル・ラフマンの長女でバングラデシュ首相のシュイク・ハシナ、また、ジアウル・ラーマン大統領の未亡人カレダ・ジアが活躍している。

南アジアの女性は何を目指してどう戦っただろうか。まず、民族主義の文脈においては男性によって民族意識発揚の道具として扱われ、そのような時代にはむしろ「妻」でなくなることによって家父長制から解放され、自由になった。パキスタン人らしく近代的人権を主張しようとするマララはイスラーム主義と戦いながら、西欧的価値とパキスタンの価値の間でも戦うことを余儀なくされている。上位の女性による権力への参加の例である B・ブットーを見れば、彼女が既存の権力へ同調することによって安定した権力を獲得したことがわかる。今も、女性を取り巻く社会的不正義は後を絶たない。名誉殺人、婚資をめぐる殺人、レイプなどの不正義に対して、権力はいまだに女性を守り切れていない。近現代南アジアのムスリム女性は、重層的な制約の中で、いつの時代も、それぞれの形でたたかっている。

オランダ史の中の女と男

人文科学部 総合歴史学科 教授 櫻田 美津夫

はじめに

本日の話の目的は「女と男」という視点からオランダ史を概観することだ。オランダ史の中で特に女性はどのような役割を演じてきたかに焦点を合わせる。『イギリスの歴史が2時間でわかる本』という書物が今話題になっているが、本日は「オランダの歴史が90分でわかる話」をめざしたい。

最も偉大なオランダ人とオランダ史 50 の窓

2004年にオランダで放送された「最も偉大なオランダ人」と題するテレビ・シリーズで、視聴者の投票をもとにオランダ史上の偉人ベスト10が選出された。最終的に確定した順位は以下のとおり。
①オランイエ公ウィレム ②ピム・フォルタイン ③ウィレム・ドレース ④アントニ・ファン・レーウェンフック ⑤デシデリウス・エラスムス ⑥ヨハン・クライフ ⑦ミヒール・デ・ライテル ⑧アンネ・フランク ⑨レンブラント・ファン・レイン ⑩フィンセント・ファン・ゴッホ。このうち、女性はアンネ・フランクの1人だけ。上位100人を見ても女性は18人しかいない。

2006年には、オランダ史の「規準」(canon)としての「50の窓」が発表された。2004年以来、歴史家を中心とする専門委員会が選定作業を行ってきたもので、オランダの子どもたちの自国史への甚だしい無知を改善するための工夫として提示された。このうち、女性が主役になっているのは、アレッタ・ヤーコプス、アンネ・フランク、アニー・M・G・シュミットの3テーマしかない。

偉大な夫を支えた妻たち

オランダ建国の父オランイエ公ウィレムの3人目の妻シャルロット・ド・ブルボンは、成熟、理解力、気立てのよさ、政治宗教面での見解の一致などをすべて具えていて、オランイエ公にとってかけがえのない伴侶だった。しかし連年の出産による衰弱に、夫への暗殺未遂事件後の心労と看病疲れが加わり病死した。4人目の妻ルイーゼ・ド・コリニーとの結婚はウィレム自身の暗殺によってごく短期間で終わったが、彼女はのちに後継者となる一人の男児を産んだだけでなく、オランイエ・ナッサウ家の支柱となって、先妻の娘たちをヨーロッパ各国の名家に嫁がせることにも成功した。

17世紀の法学者グロティウスは、オランダ国内の政争に巻きこまれて終身刑を言い渡され、川の中のルフェステイン城に妻 MARIA・ファン・レイヘルスベルヒュとともに収監された。書物運搬用の木製の長櫃を脱獄に使うことを思いついた MARIA は、夫に練習させて、鍵穴一つだけの長櫃内に2時間こもっていられるようにした。対岸の町が縁日で賑わっていた1621年3月22日、計画は実行に移され、グロティウスはまんまと脱獄に成功し、最終的にはパリに亡命した。

1848年、国王ウィレム2世から新憲法の起草を依頼されたレイデン大学教授トルベッケは、1ヵ月足らずで近代的憲法を書き上げた。その後内閣を率いてオランダの近代化に努めた彼の最大の敵は、急逝したウィレム2世の後を継いだウィレム3世だった。新憲法によってほとんどの実権を自分から取り上げたトルベッケを王はひどく嫌っていた。だがトルベッケはこの気難しい不平家の王と冷静に向き合った。聡明で良き相談相手だった妻アーデルハイトが王妃ゾフィーと良好な関係を築いていたことも幸いし、時には、夫が国王から得られない情報を妻は王妃経由で知っていた。

女の自立をめざして

アレッタ・ヤーコプスはグローニンゲン州のユダヤ系医師の娘。1871年、16歳のときトルベッケ

に直訴の手紙を書き、グローニンゲン大学への入学を認められた。オランダ史上初の女子大学生だった。1878年には医師試験にも合格。女性医師の第1号となった。貧しい女性は無料で診察し、毎年の出産を防ぐための避妊薬も配り、売春婦の性病治療にもより人間的な方法を取り入れた。彼女は婦人参政権運動のリーダーでもあり、おかげでオランダでは早くも1919年に、女性に普通選挙権が与えられている。第一次世界大戦中、ベルギーからの難民の世話をしたのも、婦人国際平和自由連盟を代表してウィルソン米大統領に会いに行き平和を訴えたのも彼女だった。

今も光彩を放ち続ける短い生涯

最も偉大なオランダ人ベスト10に唯一含まれているアンネ・フランクは、第二次世界大戦中の手紙形式の日記によって世界的に有名である。出版後、次々に版を重ね、各国語に翻訳されて大ベストセラーになった『アンネの日記』の中には、ドイツ占領下のオランダで行われていた抵抗運動、当時の戦況などに関する客観的記述も多数含まれていて、第一級の歴史史料ともなっている。

三代続いた女王

ウィルヘルミナ女王はウィレム3世の娘。建国の父オランジェ公ウィレムを範と仰ぐ彼女の強い義務意識や個人的な資質のおかげで、王室人気は再び高まった。第二次世界大戦中、政府とともに英国に逃れた女王は、ラジオを通じて国民を励まし続けた。戦後の1948年に退位。

ユリアナ女王はウィルヘルミナの一人娘。即位の翌年にはインドネシアの独立を承認。夫君のロッキード事件への関与など、王室存続の危機にも直面したが、女王自身は情け深い態度と飾らない人柄で国民から特別に愛された。1980年に退位。

ベアトリクス女王はユリアナの長女。国民への呼びかけの折には「他者に対する寛容」を繰り返して説き、異文化間の共生・共存を一貫して訴えた。2013年、長男に位を譲り退位した。

オランダ現代政治の中の女性

2017年に発足した第3次ルッテ内閣の閣僚16人中女性は6人(37.5%)である。国際統計・国別統計専門サイトGLOBAL NOTEの女性議員割合の国別ランキングでは、オランダは35.6%で第25位である(日本は13.7%で140位)。オランダ国会第二院議員選挙の各党候補者表(2002年総選挙)をみると、各党の女性候補者の数と割合は次のようになっている。労働党74人中30人(41%)、自由民主国民党75人中19人(25%)、キリスト教民主アピール56人中22人(39%)、民主66年党30人中12人(40%)、緑左翼党30人中12人(40%)。候補名はたいてい男女交互に挙げられている。

おわりに

冒頭でオランダ史上の偉人たちや、大半は輝かしい「50の窓」を紹介したが、それに対して暗黒面を描く本も昨年出版された。題して『オランダ史の中の黒いページ』(蘭文)。幸い、全18章中、女性が主役を演じた項目は皆無である。

民主66年党の第二院議員S・シュールツマとP・ファン・メーネンの意見記事「歴史の中に女性たちを引き戻せ」(NRC DE WEEK紙、2018年3月12日)は、なぜ学校の歴史教材には女性の重要人物たちが載っていないのかと疑問を投げかける。そして、昨年11月末にわが国の歴史上の女性たちに焦点を合わせた「F-Site」が発足したことを寿ぎつつ、忘れられた女性たちを歴史書の中に復活させよう、「50の窓」も見直して女性を増やそうと提言する。投稿文の最後は、女子のためにもっと多くのrole modelを、との呼びかけで締め括られている。

時間切れで当日の講座の中では話せなかったが、5年前に出版されたエルス・クルック編『オランダ史の中の1001人の女性』(蘭文)もまた、こうした欠落を埋めようとする果敢な試みと言える。

後期講座テーマ

**「パフォーマンスとコミュニケーション
-Performance and Communication-」**

(平成30年9月1日～11月24日)

金は舞台に落ちている——マーク・トウェインと演劇

人文科学部 実践英語学科 教授 和 栗 了

1. マーク・トウェインと演劇

マーク・トウェイン (Mark Twain, 本名 Samuel Langhorne Clemens, 1835-1910) は十代の頃に演劇に興味を持ち始め、生涯演劇的なものに関心を寄せ続けた。彼が青年時代に公演を見て、興味を持った俳優には、Edwin Forrest (1806-1872) や Edwin Thomas Booth (1833-1893) などがいた。どちらもウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) の劇を得意とした。彼の興味の背後には、トウェイン自身がシェイクスピアに強い関心を持ち続けたことがある。

2. トウェインとシェイクスピア



トウェインはシェイクスピアと彼の作品に非常に強い関心を抱き続けていた。『ハックルベリー・フィンの冒険』(Adventures of Huckleberry Finn, 1884年)の21章には、「公爵」と名乗る詐欺師が、“HAMLET’S SOLILOQUY”の練習をする場面がある。本名を名乗らない「公爵」と、「王様」としか名乗らないもう一人の詐欺師は、共謀して田舎町で「シェイクスピア劇公演会 (入場者は男性に限ります)」という、いかがわしい宣伝文句の詐欺的公演をやって金を儲けようとする。“HAMLET’S SOLILOQUY”はまだ観るに堪えるものだとしても、左の挿絵は強烈な笑いを誘う。この“THE KING AS JULIET”では、白くなった口髭と顎髭をはやしたジュリエットが「オー、ロミオ、どうしてあなたはロミオなの」と嘆くのである。

だが、この「王様」扮するジュリエットは、知ったかぶりをする無知なアメリカ人をも揶揄する。作品中のジュリエットが13歳11か月であることも知らずに、「あのバルコニーの場面は最高です。あなた『ロミオとジュリエット』をご覧になってないの？」などと自慢する、アメリカの田舎町の俗物たちを、トウェインは笑い飛ばしている。そして、その笑われている人の中に、間違いなくトウェイン自身もいた。

シェイクスピアもトウェインも人間の理性というものに懐疑的だった。英雄 (悲劇の英雄も含め) が本当に凡人を超越した能力を持っているのか、疑問を持っていた。そして、ユダヤ・キリスト教の神の絶対的正義にも、疑問を抱いていた。

人間は理性を働かせ、卓越した能力を身に着けて、完全な人間 (≒神) になれる可能性があるという、14世紀イタリア・ルネサンスの考え方は、シェイクスピアにもトウェインにも理解しにくいものだった。両者は、完全な人間あるいは英雄とみなされる人々は自分の思い付きで生きているのであり、通常の判断力の人間には理解できない。しかも、その英雄的人物の思い付きは、かつてどこかで誰かが考えたことであり、独自のものではない、とトウェインは考えていた。

3. マーク・トウェインと演劇——自作の演劇化、あるいは演劇を意識して

トウェインは、劇的場面や演劇的效果をほとんどの長編作品に盛り込んだ。例えば、『王子と乞食』(The Prince and the Pauper, 1881年)の最終場面では、大貴族と高官が居並ぶ戴冠式の場で、王の服装をまとった乞食のトム・キャンティ(Tom Canty)が乞食の服装のエドワード六世に跪き、



「この方こそ本物の王である」と宣言する。『アーサー王宮のコネチカット・ヤンキー』(A Connecticut Yankee in King Arthur's Court, 1889年)で、火刑柱に縛り付けられたハンク・モーガン(Hank Morgan)が、皆既日食で欠け始めた太陽を指し示す場面は、まさに劇的だ。もともとトム・ソーヤは「見せびらかすこと」(showing-off)が大好きな少年で、目立ちたがりである。

だが、トウェインは劇作家ではなかった。戯作の力が無かったと言ってよい。トウェインは小説中に劇的場面を描けても、彼は一度も劇作品として売れるものを書いていない。トウェインの作品をもとに、他の文人が台本を書くとその劇は成功したが、トウェインが

脚本を書くと観客に受けなかった。

4. 『自伝』——「マーク・トウェイン」を演じ切って

少年時代に舞台上上がる喜びを知ったトウェインは、三十代に講演会活動(Lyceum運動)で金と名声を手に入れた。そして「マーク・トウェイン」を演ずる楽しみも味わった。『ハックルベリー・フィンの冒険』や『アーサー王宮のコネチカット・ヤンキー』を出版したころ、1880年代、40代後半になると、トウェインは自分がアメリカ合衆国を代表する文人だと意識するようになる。1886年1月には、文学者を代表して著作権の延長のために米国連邦議会上院公聴会で証言した。そして、「現在生きている作家の中で百年後にも読まれている作家は、ポーとホーソンとハウエルズと自分くらいだ。著作権の延長は実質的にこうした作家たちにしか関わりがない。だからこそ延長せねばならない」と主張した。マーク・トウェインは40代後半で、名実ともに合衆国を代表する作家として認められた。

トウェインの人生は「成り上がり者」(self-made man)の典型だった。しかも、トウェインは単なる「成り上がり者」でなく、合衆国を代表する文化人になった。稀代の英雄と言ってよい。神話的人物になっていた。何を書いても売れ、何をやっても許された。彼がすることは、神話的人物の行為として、英雄の遊びとして受け入れられた。晩年の彼にはもはや「マーク・トウェイン」を生きるしか道が残されていなかったのだ。

そして、彼は、自らの死後百年後に『自伝完全版』の原稿を出版するよう、遺言を残した。彼には百年後でも自分の本は売れるという自信があった。事実、『自伝完全版』は、文芸書としては驚異的な売り上げを記録し続けている。彼はまさにやりたいことをやりたいようにやった、そして金儲けをして、百年後の読者をも魅了し続けている。人生が舞台だとしたら、彼は稀代の英雄「マーク・トウェイン」を演じ切った。それを証明してみせたのが『自伝完全版』である。百年後の読者の我々は、名優マーク・トウェインを今でも読んで楽しんでいるのだ。

『グレート・ギャッツビー』におけるギャッツビーのパフォーマンス

人文科学部 実践英語学科 教授 長瀬 恵美

『グレート・ギャッツビー』は、1920年代アメリカのロスト・ジェネレーションを代表する作家の一人であるF.スコット・フィッツジェラルドの最高傑作とされる作品である。

作品の舞台は1922年のニューヨーク。語り手であり登場人物でもあるニック・キャラウェイは、第1次大戦に従軍したが、その後、当時もっとも活気があった職業、証券マンになるため、中西部の町からニューヨークへやってくる。ニックはニューヨーク郊外のロングアイランドのウェストエッグという村に粗末な1軒家を借りて住むことにする。ニックの家は豪邸に挟まれているのだが、そのうち右隣に住んでいるのが、毎週のように豪華なパーティを開いているギャッツビーという男である。ある日、ニックが、対岸のイースト・エッグの豪華な邸宅に住むまた従妹のデイジーの屋敷を訪ねるところからこのひと夏の物語が始まる。デイジーが結婚前に付き合っていたのがギャッツビーであったが、彼はヨーロッパ戦線に派遣されることになったため、二人は離れ離れになってしまい、連絡も途絶えてしまう。そのためデイジーはシカゴの大金持ちのトムと結婚する。終戦後1年もたつてようやくヨーロッパからアメリカに帰還したギャッツビーは、デイジーが結婚したことを知り、衝撃を受けるが、彼女にふさわしい男になって彼女を取り戻す決意をする。数年後、ギャッツビーは大金持ちとなって、大邸宅に住み、高級車を何台も乗り回し、週末になると派手なパーティを繰り広げては、デイジーが来てくれることを心待ちにしている。その後、デイジーが偶然に訪れることがないとわかったギャッツビーは、隣人のニックに、デイジーとの再会が自然な形でできるよう依頼する。ついに念願の再会を5年ぶりに果たしたギャッツビーは、デイジーと最初からやり直そうとするが、デイジーの夫のトムに正体を暴かれ、その計画はとん挫する。その上、デイジーが起こした自動車事故の罪を背負って、デイジーにひき逃げされた女性の夫の復讐の銃弾に倒れる。

このギャッツビーの悲劇は、アメリカの夢の崩壊、狂騒の20年代の終焉の予感、アメリカ東部と中西部の文化的衝突、進化しすぎた文明社会への批判、風刺的な騎士道精神など、さまざまに解釈することができ、これまでに多くの研究がなされてきた。しかしながら、別の角度から見るとこのギャッツビーの悲劇は、不正な手段で財を成したうえで、自分の出自を偽り、無理やりに過去を取り戻そうとしたことに起因する。そこには最初から無理があるのだが、ギャッツビー自身は気が付いていない。良家の娘であるデイジーにふさわしいだけの出世をしてかつての恋人を取り戻し、二人で幸せな人生を進んでいく、という自分の夢に向かって邁進しているだけなのである。しかしながら、彼自身は中西部の田舎で貧しい百姓の家に生まれているため、自分の目指した「ありたい自分」を演じるため、偽の自分を「言葉」によって証明して見せようとした。しかしそれは結局失敗に終わった。

一体それはなぜだったのだろうか。そのカギはコミュニケーション理論におけるノンバーバル・コミュニケーションにあると言えよう。コミュニケーションでは言語と非言語が有機的に機能するが、後者、すなわち非言語（ノンバーバル・コミュニケーション）の果たす役割はかなり大きく、レイ・L・バードウィステル（1970）によると、コミュニケーションで言葉が占める割合は30～35パーセントに過ぎず、残りの65パーセントほどは話しぶり、動作、ジェスチャー、相手との間のと

り方など、ことば以外の手段によって伝えられると言っている (Kinesics and Context 157-8)。アルバート・メラビアンはもっと極端に、言葉が他人に感情や態度を伝える際に果たす役割は、ほんの7パーセントしかないと言った (メラビアン 98)。ギャツビーの語る言葉は、自分では気づいていない言葉以外の要素—言葉の発し方、ジェスチャー、表情、身体の動き—などによってことごとく欺かれていたからだ。即ち真の人物像はヴァーガスの言うように「隠すより表わる」のである (M.F. ヴァーガス 18)。『グレート・ギャツビー』におけるギャツビーの悲劇は、ノース・ダコタ出身の貧しいジェームズ・ギャツが演じようとした、あるいはなり切ろうとした優雅な金持ちのジェイ・ギャツビーは、彼自身が意識せずして表していたノンバーバル・コミュニケーション (スマイル・手の動きなど) によってことごとく裏切られていたのである。



「言葉だけがコミュニケーション？」

人文科学部 実践英語学科 教授 ジェニファー スコット

まとめ：柴田 隆司 教授

スコット教授は古井由吉に関する研究の中で「能楽」を知り、それを切っ掛けに「狂言」を演じるまでになりました。そのような流れの中で「言葉だけがコミュニケーション？」を講演されました。

欧米人は高校時代にシェークスピアの講義を聞き、社会人となってからはシェークスピア演劇を敬遠する傾向だ、ということです。本学では毎年初夏にイギリスからシェークスピア劇を演じる劇団を招き講演を開いており、これは毎年、盛況であります。この違いは何でしょうか。

同じように日本人から見た「狂言」は、学生からするとほとんど知らないものであり、狂言と能の違いさえわかっていないようです。一方、「狂言」は外国人から見ると興味をそそるもの、受け入れやすいものとして存在するようです。

スコット教授が本学に就任された頃より狂言に費やす時間が増えたようです。県内の狂言の指導者に恵まれたこともあり、どんどん「狂言」にのめりこまれたようです。スコット教授の初演は「しびり」で2006年のことです。指導者の田賀屋夙生（たがや はやお）氏のもと、オーストラリアにおいても高校でのワークショップ開催やスコット教授の出身大学があるタスマニア島ホバート市での講演をお手伝いされました。高校でのワークショップは「すり足」、「お酒を飲む様子」、「笑い方・泣き方」や扇の使い方などを演劇部の生徒を指導され、生徒達も大変満足されたそうです。ホバート市での講演では事前に「狂言」を講演され理解を促し、3演目（「しびり」、「神鳴」、「棒しばり」）を披露されたようです。言葉のわからない外国人であっても笑っていただくところで笑ってもらえたようです。

また、岡山においても、「タスマニア大学日本語文化学科伝統芸能集中講義」の一環として、後楽園で狂言ワークショップの開催をお手伝いされました。残念ながらの舞台は工事中で利用できなかったのですが、狂言に関する体験をタスマニア大学日本語文化学科の学生さん達がされました。歩き方、能面の鑑賞、装束をつけてもらったの演技指導、附子の講演に及んだそうです。

「狂言」の特性として、短いストーリー、ユーモラスさ、声のトーンや大きさ・表情でわかりやすい、舞台設備もほとんどないため観客が容易に想像することなどが挙げられます。取り扱う内容は人間の強さ・弱さ・狡猾さなどの人間性がテーマであるので、言語、国境、年代、年齢、文化をも超えるものであると言い得るものでしょう。「狂言」というパフォーマンスは、言葉も大切ですが、言葉がなくても成立するところに醍醐味があるように思われます。



絵本翻訳の世界

人文科学部 実践英語学科 准教授 武部好子

はじめに

2018年10月6日(土)午前10時より就実大学S館101にて公開講座を実施した。公開講座のタイトルは『絵本翻訳の世界』とし、講義のテーマは「子供だけでなく大人も楽しめる絵本の世界について、演劇と翻訳の観点から魅力を探ります。紙絵本と電子絵本との比較や、英語と日本語による読み聞かせを通して、言語と非言語の関係も一緒に考えましょう。」とした。前半は解説、後半は実践という構成で行った。以下、概要を報告する。

1. 「視聴覚翻訳とは」

まず視聴覚翻訳とは「マルチモード型でマルチメディア型のテキストを他の言語文化へ移すケースを扱う翻訳」のことであり「マルチモード型とは視聴覚テキストの作成と解釈に幅広い記号手段を使用しモードの複合的な使用に頼っていることを指し、主なモードには言語、映像、音楽、色彩、視点がある」(González, Luis Pérez. ‘Audiovisual translation’. Baker, Mona, and Gabriela Saldanha, eds., *Routledge Encyclopedia of Translation Studies*. Second Edition. (pp. 13-20). London: Routledge, 2011.) 点を強調した。

2. 「演劇と絵本の翻訳について」

演劇の翻訳は「小説や詩と違い文学作品という側面以外に視覚および聴覚のイメージを通して言葉が舞台光景と一体化することが求められている。」(Anderman, Gunilla. ‘Drama translation’. *Routledge Encyclopedia of Translation Studies*. (pp. 92-95).). 一方、絵本の翻訳では「音も又子供向けの翻訳にはきわめて重要な要素である。子供には物語を読み聞かせることが多く音読用に翻訳しようとするとかかなりの力量が要求されるからである。子供向けの物語は音読でも黙読でも明確な物語の流れとリズムへの細心の注意が必要である」(Lathey, Gillian. ‘Children’s literature’. *Routledge Encyclopedia of Translation Studies*. (pp. 31-34).) ことから、演劇と絵本の翻訳の共通点として、言葉を視聴覚的に非言語に置き換える必要があり「言語記号を非言語記号体系によって解釈する」「記号間翻訳」(Jakobson, Roman. ‘On Linguistic Aspects of Translation’. Lawrence Venuti (Ed.), *The Translation Studies Reader*. Second Edition. (pp. 138-143). New York: Routledge, 2000.) について説明した。

3. 「電子絵本翻訳のポイント」

電子絵本とは、目で絵を見ながら耳で音を聴くことによって、絵本の作品を自然に鑑賞できる読書支援ツールである。このスタイルを確立するには、文字だけでなく声も意識することが求められる。紙絵本の翻訳では絵と文字が合致することが必要だが、電子絵本の翻訳の際には文字と声が完全に一致していなければならない。「絵」「文字」「声」の三要素が三位一体となって初めて絵本作品の意味がメッセージとして視聴者に伝わる。電子絵本『ええぞ、カルロス』(大阪市教育委員会編集)の英語翻訳版も映像で示しながら解説した。

4. 「絵本翻訳のポイント」

次に絵本翻訳のポイントについて以下説明した。①絵を見て、その絵のイメージに合う訳を創る。②子供の言葉づかいに合わせる。③ストーリーやキャラクターに合う口調を選び、語尾は「～ました」で統一し、話し言葉では「～ね」「～よ」なども使う。④擬態語や擬音語 (Onomatopoeia) は子供の興味を引き効果的である。⑤声に出して読み聞かせた時に子供の心にリズムカルに響く訳にする。

5. 「英語絵本の読み聞かせの実演」

そして英語絵本 (David Saltzman 作 *The Jester Has Lost His Jingle* (2012)) を OHC で写しながら読み聞かせを行った。

6. 「読み聞かせのポイント」

読み聞かせのポイントについて英語のクイズ形式で受講生に問いかけ、フロアから活発に答えていただきながら、講師と受講生とのインタラクティブな交流を図った。

7. 「翻訳⇒練習⇒発表」

その後、受講生たちは3人組のグループ (英語のオリジナルを読む人、日本語の翻訳を読む人、非言語で表現する人) になり、グループ毎に絵本の1ページを配布した。受講生たちは協力しながら和気あいあいと翻訳しながら練習を実施した。その間、講師は各グループを回りながら、各ページの訳についてアドバイスを行った。最後に、代表して4グループがジェスチャーを交えながら発表を行った。中でも、主人公ジェスターが城に戻って王様に飛びつくシーンを演じたグループは、会場の階段形式を生かして、ジェスター役の受講生が階段の上から、壇上の王様役の受講生に向かって颯爽と走って来られて臨場感あふれるダイナミックな演技を披露なさり、絵本の内容と同様に、エンディングは会場が笑いの渦に包まれて大変盛り上がった。

おわりに

会場が劇場と化した当日の講座では、講師による英語絵本の読み聞かせの実演から、受講生同士の交流を経て、最終的に受講生による発表に至り、正に今回の講座の全体テーマ「パフォーマンスとコミュニケーション (Performance and Communication)」を体現する結果となった。受講生の方々からは「絵本は読み手と聞き手のコミュニケーション」「先生の発音素晴らしい。楽しく友情も芽生え、皆の発表も素晴らしかった」「皆翻訳の即興がうまかったのでびっくりした」「とても楽しくできてよかったです。先生の英語はとてもきれいで感動しました」「自分の英語力、日本語力が試せて、とても有意義でした」「先生のリーディングと訳も本当に素晴らしかったです」「3人組での作業はとても楽しく取り組みました」「素晴らしく勉強になりました」「講師の発声と素晴らしいアクセントにより分かりやすく聴講することが出来ました。いろんな新発見が出来有難うございました」等のコメントを頂いた。ありがとうございました。

パフォーマンス向上をめざす英語教育の取り組み

人文科学部 実践英語学科 教授 小山 敬一

はじめに

近年、中学・高校での英語教育では、英語学習者の「パフォーマンス」の向上が課題となっている。これは「言語を実際の場面で運用する能力」という意味であり、これからの国際社会を生きる日本人にとって不可欠な資質と考えられる。今回は、最近の英語学習現場での新しい学びの一端を紹介し今後の英語教育を考えてみます。

第1部 英語教育の今昔

(1) 平成時代の英語教育を振り返る

平成の時代はバブルで始まり、例えば“Japan as No.1”とか「インターナショナル（国際）」ということばが時代を映し、英語教育も変化の波に洗われていた。平成時代の英語教育は、日本の戦後英語教育の大きな転換の時期といえる。今回は平成英語教育の特徴的なことばをいくつか取り上げ、変化を振り返ってみたい。

学習指導要領：平成幕開けとともに実施された「高等学校学習指導要領」改定は、戦後最大とも言える転換を英語教育にもたらした。例えば「オーラルコミュニケーション」は、カタカナ名称の新科目登場という目新しさだけでなく中身も斬新で、従来の「読み・書き」に加え「英語のやり取りや発表」を授業で行うこと、英語の授業は英語で行うことを求めた。

ALT・AET：ALT（英語指導助手、(当時)はAET)の導入は厳密には昭和62年からである。彼らは「助手(assistant)」であるので、授業のリードは日本人教員(JTE)であり、ALTとの「共同授業(Team Teaching)」が一般的となった。全国のすべての中・高の授業にnative speakerが参加するようになったことで、英語学習の目的が従来の教養的なものから実践的なものへと転換を促す大きなきっかけを与えた。

学習者中心：平成になって、教師側からの「教える」視点から授業を捉える教師主体の古い方法論からの脱却が提案されるようになった。学習者を学習の中心に位置づけた方法論の研究と実践が広がりを見せた。平成最後の数年は、この方法論がさらに進化し、アクティブラーニングとして広く知られ、広く受け入れられている。

文部科学省主導のプロジェクト (SELHi, SSH, SGH など)：先進的な英語教育を研究するため平成なかばの2002年度からSELHi (Super English Highschool)事業が始まった。指定された学校で行われた研究開発では生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上がみられ、英語による授業実践の定着、指導方法の工夫・改善、授業外での英語活動の導入など多くの意欲的な実践報告がなされた。この成果は、後の学習指導要領改訂の際の参考や、英語の教育課程等の改善の実証的資料ともされ今に繋がっている。またSSH(Super Science Highschool), SGH(Super Global Highschool)など平成時代には同様の事業が行われた。

Goal Oriented(目標志向)：SELHiでの実践を踏まえ、まず生徒の育成目標を具体的に記述し、次にその目標達成のために何を授業で行うかを考え、実践する有効性が注目された。育成目標は、例えば「1年生終了時には、〇〇ができるようになる(can do…)」と表現したため、すべての科目の目標の一覧表のことをCan Do Listと呼び、文科省が先導役となり全国の学校で作成された。これにより、教員間での目標共有化が容易になり協働が促進された。

残された課題：平成時代には、新しい取り組みや成果が得られた一方で、いくつか課題が残った。例えば、古い方法の良さを強調しすぎて変化を受け入れないとか、新しいことのみを追い求め、見よう見まねでうわべの変化を追い求めるなどの事例が見られた。なぜ変化が必要なのか、誰のための変革なのかを理解し、バランスよく対応することが本当は必要なのだが。

（２）ポスト平成時代の英語教育

これまでの流れから将来のことがいくらか想像できる。一周回りして、また海外と連携が強まる時代となった。今度は「グローバル化」である。平成最後の学習指導要領改定では「論理・表現」と、また風変わりな科目名が登場する。「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」とい従来からの４領域を、あえて５領域へと変更している。「話すこと」を「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」の２つの領域に分け改定の目玉としている。この改定では「発信的な（output）」能力育成へのメッセージが力強く謳われている。

第２部 育成方法を考える（outputを中心に）

（１）Speaking 力とは

第１部で見たように、最近では英語が使える学習者育成に力を注いでいる。その実現のため、授業活動も様々な変化が起きている。今回は「話すこと（speaking）」を例に少し紹介する。

実は、英語を話す力は単に英語で話す量を増やせば上達するというものではない。話すことは頭の中で一度に多重処理を行うので、かなり負荷の高い活動だ。この養成には、様々な処理を上手に行う力を育てる必要がある。

その多重処理の構成要素は、文法力、発音やイントネーションなど音声を制御する力、会話の開始・継続・割り込み、そして相手に合ったり、わかりやすく伝えるなどのコミュニケーション技能、ジェスチャーや表情など、多岐にわたる。これら全てを英語の授業で身につけるとなると、授業にはそれなりの工夫が求められ、すでに多くの取り組みが現場や、研究者から報告されている。

（２）知識、技能の両方を育成

従来は、知識の体系が完成した後に、運用（話すこと、書くこと）できるようになると思われていたが、現在は「知識を学び」ながら、一方で実際に「運用を体験」する方法が一般的だ。学んで体験し、体験しては学びなおすのである。その往還の過程で学習者の力を養成しようとしている。

技能横断型の授業活動では、複数の技能を用いる統合的活動が必要とされる。これは学習指導要領でも推奨されている。具体例が「ディクトグロス」だ。ごく大雑把に言えば（１）まとまった英語を聞き（２）その要点と思われるキーワードをメモし（３）メモを元に自分のことばで内容を再現しながら書き（４）その内容を他者に説明するという活動で、４つの技能を総動員するものだ。

こうした統合的活動の重要な要素は authenticity（本物らしさ）という言葉でまとめられる。これは教室での活動が実社会で本当に起こるものに近いということを指しており、活動がより実践的な力を養成することに繋がっていることを意味している。

（３）まとめに代えて

ポスト平成時代の英語教育では、ますます学習者が自発的に学び始めると思われる。そして学習者相互が学びあう場面も多くみられるようになるにつれ、こうした学習活動を支える教師の役割、すなわち facilitator（進行役）としての色合いが強まるに違いない。

第３部 具体的な授業活動の例

公開講座の内容は、上記第２部までで終了した。第３部は残りの時間を利用して実際に授業で行われている活動を行い、生徒としての体験の場面とした。ここでは省略する。

文化財講座

(平成 30 年 5 月 19 日)

文化財講座 姫路の再発見

人文科学部 総合歴史学科 教授 苺米 一 志
同 吉 本 勇

文化財講座の開催

2018年5月19日（土）に文化財講座を開催しました。

今回の見学先は兵庫県姫路市、引率担当は総合歴史学科の苺米一志教授、吉本勇教授でした。

テーマは「姫路の再発見」、姫路城ばかりが注目されがちな姫路市ですが、他にも色々と見所があることを認識してもらうことを目的としています。

前日の天気予報では、降雨の確率が50%ほどでしたが、当日は好天に恵まれ、全旅程を支障なくこなすことができました。

「御座候」製菓工場の見学

午前8:30、大学正門に集合、教員も含め27名が就実学園のバスで出発しました。

道すがら、配布資料に基づき、苺米教授が姫路の歴史を簡略に説明していきます。姫路の街は、古代には播磨国府があったこと、10世紀末、北方に書写山円教寺が開創されたこと、南北朝期以降は播磨国守護であった赤松氏がこの地を掌握したこと、その中で「姫山城」という姫路城の原型が出来てきたこと、黒田氏以降に本格的な城郭が建設され、江戸時代には多くの大名が入れ替わり立ち替わり姫路城に入ったこと、などが解説されました。

また、吉本教授からは、眼鏡のパリ三木など姫路発祥の企業は案外に多いこと、かつて姫路市街にはモノレールが走っており、その高架橋脚が残され、一種の文化遺産のような扱いを受けていること、などが解説されました。

龍野西SAで休憩の後、姫路市内の製菓会社「御座候」の工場に向かいます。「御座候」は岡山市内でも、数箇所の店舗を営業しています。

「御座候」の創業は1890年（明治33年）、現在では人形焼きの他、柏餅、餃子、肉饅、蕎麦なども生産していることを知り、一同非常に驚きました。全国の店舗で使用する小豆餡は、全てこの工場一箇所で生産して配送しているそうで、その生産規模の大きさは業界一のものになります。

兵庫県立歴史博物館の見学

隣の「あずきミュージアム」のレストランで小豆づくしの昼食を摂り、姫路城裏手の兵庫県立歴史博物館に向かいます。前田徹学芸員から、常設展の解説を頂き、2階の特別展「線路はつづく レールでたどる兵庫五国の鉄道史」を観覧します。岡山と姫路を結ぶ路線に関する展示もあり、ご自身の記憶にもある方は非常に懐かしそうな様子でした。

姫路城の見学

その後、姫路城の大手前駐車場から城の本丸と天守閣に向かいます。

城郭の造りとしては、らせん形に曲輪が連なっており、それに沿うように登っていくかたちになります。天守閣は、外見上は5層ですが、内部は7層になっており、そのつづら折りの階段には、

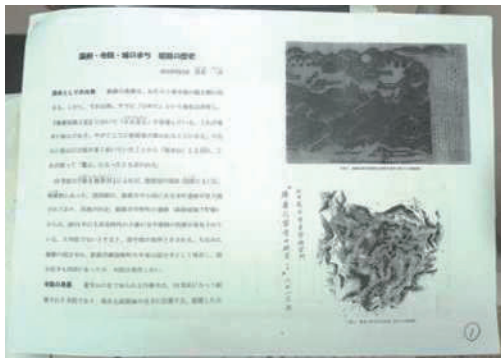
誰もが息を切らしていました。

天守閣最上層には城の守護神でもあり、城主に悪い行ないがあると祟るとも言われる刑部大明神が祀られています。一般には刑部姫の名前で知られ、泉鏡花『天守物語』の主人公にもなります。

最上層からは、姫路の町並みを一望することができます。階段を下り、蒸し暑かった天守閣から出ると、心地よい風が吹いてきました。

行程の終了

以上で旅程は修了し、往路と同じルートで大学に戻り、さらに岡山駅西口まで参加者をお送りしました。今回は二人の担当制でしたが、苺米教授が歴史の古い部分（古代～近世）、吉本教授が新しい部分（近代～現代）を解説することが出来ました。来年度以降も、このような試みを行なっていきたいと思います。



配布資料



御座候 工場 正門



御座候 小豆餡 製造工程



姫路城 天守閣

学科・研究所・センター等主催事業

主	催	就実大学表現文化学会		
行	事	公開学術講演会		
講	師	小矢野哲夫（神戸学院大学教授・大阪大学名誉教授）		
日	付	平成 30 年 12 月 1 日	場	所 本学 R601 教室
対	象	者 一般・本学学生	参	加 人 数 280 名

概要

平成 30 年 12 月 1 日（土）、表現文化学会を開催した。学術講演会の講師には神戸学院大学教授・大阪大学名誉教授の小矢野哲夫氏をお招きし、「日本語研究と用例採集」の題でお話しいただいた。

小矢野氏は、現代日本語研究における用例採集の重要性を説かれ、その手法には、新語や流行語をはじめとする「動く日本語」を観察する方法と、新聞・書籍等から文法的な事項についての用例を採集する方法との二つのタイプがあることを示された。前者の成果は 1980 年代から氏が発行している「けとば珍聞」や、同名のホームページで見ることができる。後者については文字だけでなく、漫画に描かれる視覚情報、ドラマ・映画から採集可能な聴覚情報などを組み合わせた分析を進めておられることが紹介された。これは現在の言語研究が、文字情報・視覚情報・聴覚情報のすべてをトータルに把握した上で行われるべき段階に来ていることを示すものであり、きわめて示唆的であった。

講演終了後は、表現文化学科の日本語担当教員である中崎准教授・岩田講師が専門的な見地から講師に質問を行い、発展的な議論を展開した。また、質疑応答の時間には日本語コースの学生を中心に次々と手が挙がり、質問が途切れることなく続いた。学生たちは研究の面白さをあらためて実感したようである。



主	催	人文科学部・実践英語学科		
行	事	ITCL 第45回日本公演 就実大学公演『ロミオとジュリエット』		
講	師	International Theatre Company London		
日	付	平成30年5月16日	場	所 本学R601教室
対	象	学生、教員、一般	参	加 人 数 350名

概要

2018年度就実大学実践英語学科主催 International Theatre Company London によるシェイクスピア演劇 *Romeo and Juliet* (『ロミオとジュリエット』) の公演が5月16日(水)午後3時30分よりR館601講義室にて行われた。

舞台は14世紀イタリアのヴェローナ。キャピレット家とモンタギュー家という旧家は抗争を続けている。キャピレット家の一人娘ジュリエットとモンタギュー家の一人息子ロミオは舞踏会で出会い恋に落ち、二人は修道僧ロレンスの元で密かに結婚する。しかし、ロミオは街頭での争いに巻き込まれ、親友マキューシオを殺されたことに逆上し、ジュリエットの従兄弟ティボルトを殺してしまい、追放される。一方、キャピレット家は悲しむジュリエットに名門貴族パリスとの結婚を決め、追い詰められたジュリエットは修道僧ロレンスに助けを求め、仮死の毒を飲むが、ロミオには計画が十分に伝わらず、ジュリエットの死を見てロミオは毒を飲んで死んでしまう。その後目覚めたジュリエットも短剣で後を追う。二人の死によって両家は和解に至る。本公演では英語を日頃から勉強している学生達は勿論の事、英語から離れている方々にとっても、物語を理解しやすいように工夫されており、特に今年は字幕翻訳が舞台横ではなく舞台上部に表示されたため例年よりも見やすく観客にも好評であった。シェイクスピアによる英語の台詞を字幕翻訳で確認しながら、俳優たちによる豊かな表情、響き渡る声、迫力ある動き、音響を通して物語を堪能した。限られた人数と舞台装置を駆使して、一人が複数の役や石像に扮し、2枚の板と数個の箱のみで場面転換を効果的に行っていた。途中、俳優が観客席に入り込み臨場感溢れる演出で観客を魅了し、最後の場面では観客席からすすり泣く声が聞こえ、観客と舞台が一体となった本場の演劇であった。



主 催	教育心理学科		
行 事 名	2018年度 キャリア・就実大学教育心理学会 講演会(共催)		
講 師	木原 徹 氏 (日本産業カウンセラー協会専任カウンセラー・認定講師)		
日 付	平成30年7月14日	場 所	B106 大講義室
対 象 者	教育心理学科学生・教員、他学部生等有志	参 加 人 数	120名

概要

今回は「仕事に役立つ心理学～産業カウンセラーとしての経験から～」という演目で、木原徹先生にご講演いただきました。

以前は企業の人事部で、現在は産業カウンセラーとして、数多くの「働く人」とかかわってこられたご経験から、「仕事に役立つ心理学」についてお話しいただいた。心理専門職や一般就職を目指す学生はもちろんのこと、養護教諭や特別支援学校教諭として学校で「働く人」を目指す学生にとっても、産業カウンセラーとはどんな仕事なのか、いま学んでいる「心理学」を就活や実際の仕事にどう活かせるか、社会の中で働くことが「こころ」にどのように影響するのかなど、大変参考になる内容であった。西日本豪雨災害の直後でもあったことから、木原先生ご自身のボランティア体験をふまえ、一歩踏み出してボランティア活動をやってみることの勧めもあり、学生たちは大いに刺激を受けた様子であった。

司会進行等、教員の指導のもと、就心会（就実大学教育心理学会）系の学生が役割分担して講演会の運営にあたった。

以 上

主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第 1 回就実大学薬学部地域連携教育講座 「臨床栄養学」 第 1 部 (基礎編) これであなたも NST 第 2 部 (応用編) 最新の栄養療法		
講 師	中川 浩一 先生 (医療法人祥和会 大田記念病院 地域支援部部長 外科部長)		
日 時	平成 30 年 5 月 27 日	場 所	本学 S102 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	125 名

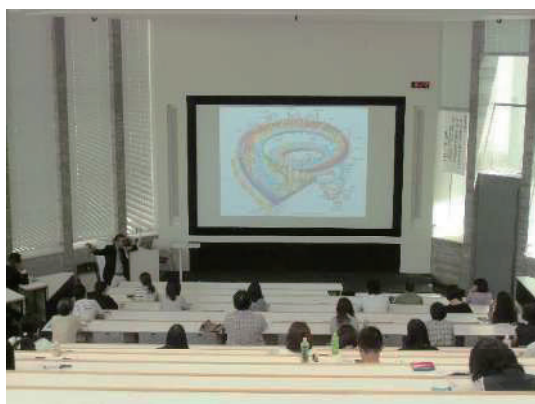
概要

本研修会では、福山市にある大田記念病院の地域支援部部長、外科部長である中川浩一先生より、「臨床栄養学 第 1 部 (基礎編) これであなたも NST、第 2 部 (応用編) 最新の栄養療法」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

第 1 部として臨床栄養学の必要性について、栄養不良をもたらす様々な影響や、栄養学が必要となった歴史的経緯から講演が始まった。必要エネルギー量についての最新の考え方や実際の計算方法、近年問題視されている胃瘠についての知見が紹介され、糖質過多となりがちな栄養療法についての警鐘や疾患末期、老衰状態についての胃瘠の考え方についても説明があった。

第 2 部として最新の栄養療法について、末梢静脈輸液、中心静脈輸液及び経消化管栄養について、実際に使用されているエクセルファイル「栄養診断君」を用いて説明があった(この栄養診断君、NST ガイドライン等については、中川先生より受講者へ提供していただいた)。緩和医療における栄養療法について、糖質過剰の問題点及び脂質投与の重要性について説明があった。

講演終了後の質疑応答では会場から多数の質問が寄せられ、薬剤師として医師への提言を行うことについて、ポリファーマシーに関することなど、本日の講義内容に対する質問のみならず、薬剤師として医療に取り組む姿勢についての話題となった。講演が終了しても、質問者が中川先生を取り囲み、熱心に質問をしているようであり、栄養療法についての重要性と共に、臨床現場で疑問を持って栄養療法について取り組んでいる薬剤師が多いことが垣間見えた。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第2回就実大学薬学部地域連携教育講座 「停滞は後退なり ～研究マインドを持った薬剤師～」		
講 師	荒木 博陽 先生 (就実大学薬学部臨床薬学研究室 (臨床薬学教育研究センター))		
日 時	平成 30 年 6 月 24 日	場 所	本学 S102 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	56 名

概要

本研修会では、就実大学薬学部臨床薬学研究室 (臨床薬学教育研究センター) 荒木 博陽 先生より、「停滞は後退なり ～研究マインドを持った薬剤師～」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

冒頭では、荒木先生が愛媛大学医学部附属病院の薬剤部長として着任された際の課題「薬剤部長としてどうリーダーシップを発揮するか?」「医学教育面での対応」「研究面のマンパワー不足」に対してどのように対処されたのかをお示しいただいた。特に、「裸の王様」にならないために部員とのコミュニケーションを重視し、そのための方策を実行されたという点が印象的であり、愛媛大学医学部附属病院 薬剤部が学術的にも実務的にも質の高い研究を展開されているひとつの要因であると感じた。続いて、病院薬剤部における研究とはどのようなものであるか (あるべきか) についての出発点となった事例についてお示しいただいた。「ルゴール液にポカリスエットを混ぜると透明になったが大丈夫か」という患者からの質問にはじまったこの事例は、薬剤師が取り組むべき臨床研究における一種のスタンダードであり、その後に荒木先生が展開された「いかにして薬学的工夫により患者の苦痛を和らげるか」を目指した研究を象徴していると感じた。このような事例に学ぶことにより、医療現場における臨床研究をより活性化することができると考えられる。実際に研修会のアンケート結果においても「臨床現場での疑問への科学的対応をみせていただき。とても勉強になりました」「臨床研究に取り組む姿勢をもちたいと思った」などの感想がよせられた。

講演終了後に「研究結果を他職種に示すときにどのようにすれば説得力を高めることができるか」「処方箋を介して調剤薬局から病院医師に情報伝達するシステムについて」等の質問に対してお答えいただくなど、活発な質疑応答がなされた。



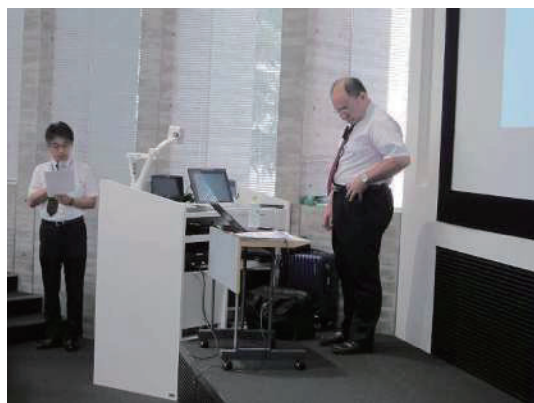
主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第3回就実大学薬学部地域連携教育講座 「かかりつけ薬剤師に必要なコミュニケーション能力とは ～誰でもうまくなれる上達のコツ～」		
講 師	岡村 祐聡 先生 (服薬ケア研究所 所長)		
日 時	平成 30 年 9 月 2 日	場 所	本学 S102 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	108 名

概要

本研修会では、服薬ケア研究所所長である岡村祐聡先生より、「かかりつけ薬剤師に必要なコミュニケーション能力とは～誰でもうまくなれる上達のコツ～」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

冒頭では、薬剤師に必要な基本姿勢とコミュニケーションが成り立つ前提条件について講演が行われた。服薬ケアコミュニケーションの定義と特徴について説明があり、服薬ケアの基本姿勢および患者さんの感情への着目を中心としたコミュニケーションの極意について、事例を挙げて説明があった。次に、服薬コミュニケーション論ということで、薬剤師が患者さんと向き合うために必要なコミュニケーション法およびその実践について具体的な説明が行われた。言語表現だけでなく非言語表現も含めたコミュニケーションに必要なもの、またその心構えについて説明が行われた。薬剤師だけでなく、一般生活に応用できるようなコミュニケーション技術の紹介が行われ、いかに集中して目の前にいる一人の人間に相対することができるかが重要であるという点が印象的であった。

講演終了後の質疑応答では会場から複数の質問が寄せられ、薬剤師の服薬指導や薬歴からのプロblemsの設定について及び薬剤師のコミュニケーションに必要な姿勢などが質問として挙げられ、実際に現場にて働く薬剤師や本学学生も積極的に質問をするなど盛況であった。本研修会を通して、臨床現場でのコミュニケーション改善に熱心に取り組んでいる薬剤師が多いことがうかがえた。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第 5 回就実大学薬学部地域連携教育講座 「環境変化（人口動態、テクノロジー）による、薬局・薬剤師の近未来像 ～アメリカでの挑戦を交えて～」		
講 師	平野 健二 先生 (株式会社サンキュードラッグ 代表取締役社長兼CEO)		
日 時	平成 30 年 11 月 4 日	場 所	本学 S102 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学 生、一般	参 加 人 数	91 名

概要

本研修会では、株式会社サンキュードラッグ代表取締役社長兼CEOである平野健二先生より、「環境変化（人口動態、テクノロジー）による、薬局・薬剤師の近未来像 ～アメリカでの挑戦を交えて～」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

講演は主に 3 部構成となっており、第 1 部では高齢化や、都会・郊外などに伴う人口動態について北九州を中心に説明があり、これから起こる薬価引き下げやジェネリックなどの医療経済変化について話され、その後に医療情報の共有や、患者の OTC 服薬情報からの診療や薬の提案にデータベースを用いるなどのテクノロジーの進歩についての紹介がなされた。第 2 部ではアメリカの薬局や薬剤師が調剤だけでなく、予防や薬物治療の効果までも薬剤師が担っているという現状を報告され、将来の日本の薬剤師が出来ることや行うべき業務につながるのではないかという事を仰った。第 3 部では第 1 部と第 2 部の内容を踏まえて、サンキュードラッグで現在、行っている取り組み（集中在庫管理、患者のデータ共有、在宅での積極的な薬剤師の活動など）を実践例として紹介し、これからの薬局や薬剤師に求められる役割をどのように担っていくかについて述べられた。

講演終了後の質疑応答では会場から質問が寄せられ、サンキュードラッグが取り組んでいる試みについて岡山ではどのようにしていくのがよいかなどの質問が挙げられ、岡山の地域性に合わせ、薬剤師が今後どのように働いていくかの具体的な例を挙げられ回答がなされた。また、講演会後も平野先生と多くの薬剤師や学生が長い時間、話や意見交換などをしており、平野先生も 3 時間で言いたいことを切らずに全部話すことができたとの感想を頂き、講演者と薬剤師のどちらにも非常に有意義な時間を共有できたと考えられる。



主	催	幼児教育学科			
行	事	就実やんちゃキッズ（地域子育て支援の取り組み）			
講	師	幼児教育学科1・2年生（GBA 中四国保育学生研究大会参加メンバー）			
日	付	平成30年5月～ 平成31年1月	場	所	本学体育館アリーナ
対	象	者	参	加	人
		就学前の子どもと保護者		数	1600名（保護者732名、子ども868名）

概要

幼児教育学科では、学生ボランティアグループ GBA と、中四国保育学生研究大会参加学生による地域子育て支援活動『就実やんちゃキッズ』を開催している。就実やんちゃキッズは、本学の体育館アリーナを会場とし、定期的を開催することで、地域の子育て世帯が子どもといっしょに楽しんで過ごすことのできる場を提供している。本年度で、12年目を迎え、子育て支援イベントとして地域に定着してきている。学生たちにとっては、他者との協働を学ぶ場であり、授業での学修を試す場であり、保育・幼児教育に関する専門的な知識や技術、コミュニケーション能力、社会貢献への意欲のなどを磨く機会となっている。

「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の実施概要（平成30年5月～31年1月）

本学体育館アリーナを会場とし、5月19日、6月16日、11月24日、1月26日の計4回開催した。開場が9時30分、開演は10時で11時30分までの90分間である。プログラムの前半部では、学生が地域の就学前の子どもを対象に公演を行った。学生たちは「表現」等の授業で学んだことを活かしながら、パネルシアターやペープサート・リズム体操・オペレッタを披露し、幕間には手遊びを行った。後半部では子どもたちや保護者と遊びを主とした交流を行った。お絵かきコーナーや、新聞シャワーコーナー、ダンボールハウスコーナー、伝承遊びコーナー、身長・体重測定コーナーなど、幅広い子育て世帯が楽しめるよう多くのコーナーを設置した。

今年度は、長年座席兼休憩スペースとして使用してきたカーペットを新調し、来場者が快適に過ごせるように配慮した。毎回400名前後の来場者が訪れているが、6月には、過去最高となる796名の来場者数を記録した。そのなかで、終始和やかな交流の場を持つことができた。



主催(学科・研究所等)	幼児教育学科		
行 事 名	潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会		
講 師 ・ 招 聘 団 体	幼児教育学科全教員		
日 付	平成30年8月18日～ 平成30年9月15日	場 所	本学・就実こども園
対 象 者	岡山県内在住潜在保育士及び現職保育者	参 加 人 数	延べ72名

概要(本文・写真・図等)

幼児教育学科では、平成26年に潜在保育士の復職支援プロジェクトを立ち上げて5年目になります。例年通り、潜在保育士及び現職保育者を対象とした卒後リカレント教育の場を兼ねて研修を実施しました。また、今年は岡山県の委託事業の一部として、若手保育士の就業継続支援及び離職防止に向けた取組みも行いました。

以下の日程で、潜在保育士及び現職保育者を対象に、5講座の研修と意見・情報交換会を実施しました。今年は見学・情報交換会を3日間設けて現在の仕事における悩みを伺う機会としました。3日目の意見・情報交換会には、岡山市の担当者を招き、復職支援の取り組みに加え、求人情報や勤務内容等、具体的に伺いました。また、昨年の受講生の中から復職に成功された方を2名招き、研修を受けるきっかけや研修後の心境の変化、就職までの経緯を報告していただきました。受講生から再就職にあたっての心配事や疑問についての質問に対して、解決に向けてのアドバイスをいただきました。

続いて、就実こども園において保育士の日常業務を体験しました。この実地研修では、保育の環境における基本を学ぶと同時に、クラス担任から直接個別の対応についての解説も伺いました。

受講の感想としては、以下のような意見が寄せられました。

- ・保育士の資格を取ったが、就労経験がないため本当に働くことができるか不安な面があった。今回の研修で学んで自信をつけたいと思っている。
- ・保育士として働いている大先輩の話も聞くことができ、長く続けられる仕事だと実感した。

日 程	内容(午前10時～12時)	講師	内容(午後13時～15時)	講師
8月18日	①乳児保育	澤津	②幼児体育	松本
8月29日	③教育相談	荊木	④器楽	秋山
9月8日	⑤特別支援	鎌田	情報交換会	
9月11・15日	就実こども園での体験実習(9:00～16:00)			



〈研修風景〉 ①特別支援



②意見・情報交換会



③就実こども園での体験実習

出 前 授 業

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	芭蕉発句「古池や」の解釈をめぐって		
講 師	丸井 貴史		
日 付	平成30年9月18日	場 所	島根県立大社高等学校
対 象 者	2年生	参 加 人 数	7名
<p>(概 要) 芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」は誰もが知る有名な句だが、その解釈には諸説ある。この講義では、和歌と俳諧の本質的な違いを踏まえ、この句の表現を文学史の文脈で捉え直すことによって、解釈の手がかりが見出されることを示した。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	「古池や蛙飛びこむ水の音」について考える		
講 師	丸井 貴史		
日 付	平成30年10月4日	場 所	岡山県立倉敷南高等学校
対 象 者	2年生	参 加 人 数	21名
<p>(概 要) 「学問の哲人講座」中の一講座。和歌と俳諧の本質的な違いを確認したうえで、芭蕉の発句「古池や蛙飛びこむ水の音」の「俳諧」性について講義した。また、近世期の版本に触れてみることを通して、〈江戸時代の手触り〉を実感してもらった。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	「古池や蛙飛びこむ水の音」を読み解く		
講 師	丸井 貴史		
日 付	平成30年11月9日	場 所	香川県立坂出高等学校
対 象 者	1年生	参 加 人 数	20名
<p>(概 要) 古典文学研究の基本は、作品の中で用いられている表現を文学史の中に置いてみることであるということを、芭蕉の発句「古池や蛙飛びこむ水の音」を例に講義した。また、近世期の版本に触れることを通して、江戸時代の本の姿についての理解を深めてもらった。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	通訳の世界へようこそ		
講 師	武部 好子		
日 付	平成30年6月8日	場 所	香川県立小豆島中央高等学校
対 象 者	高等学校2年生	参 加 人 数	17名
<p>(概 要) 通訳の種類や訓練方法を紹介し聴覚教材も使用しながら大学で行っている授業の一部を体験して頂いた。「なかなかできない貴重な体験ができてとてもよかったです」「通訳の仕事の一部が知れて本当に良かったです。難しさや楽しさが分かってとても役に立ちました」等の感想を頂いた。</p>			

所 属 (学部・学科)	薬学部 薬学科		
タ イ ト ル	どのようにして薬を創るのか		
講 師	平岡 修		
日 付	平成30年11月21日	場 所	私立鳥取城北高校
対 象 者	高校2年生	参 加 人 数	2名
<p>(概 要) 薬を創ることの難しさをこれまでの方法と最先端の方法を比較ながら紹介した。さらに、その内容に関連して、本研究室で行っている研究内容をわかりやすく平易な言葉で解説し、薬学という学問の魅力について説明しながら50分間の授業を行った。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	国際経営～グローバルな視点で企業経営を考える～		
講 師	江 向華		
日 付	平成30年10月22日	場 所	岡山県立勝山高等学校
対 象 者	普通科1・2年希望者	参 加 人 数	44名
<p>(概 要) 今日、あらゆる企業が何らかの形で海外とかかわりを持つようになった。海外展開の形も戦略的提携や海外企業買収、海外子会社設立など様々である。特に、日本企業の海外進出は年々増えている。企業が海外進出する際に直面する様々な課題や、その対応について事例を用いて解説した。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	地域の魅力を伝えるマーケティング		
講 師	加賀美 太記		
日 付	平成30年8月27日	場 所	岡山県立東商業高校
対 象 者	2年生	参 加 人 数	20名
<p>(概 要) 地域とマーケティングとテーマのもと、ゆるキャラやB-1グランプリといった具体例を紹介するとともに、なぜ地域に注目が集まるのか、そこで求められる取り組みについて経営学や社会学の視角から解説をおこなった。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	経営戦略論入門		
講 師	三浦 紗綾子		
日 付	平成30年11月1日	場 所	後楽館高校 (岡山市)
対 象 者	後楽館高校1年生	参 加 人 数	2名
<p>(概 要) 後楽館高校1年生に対して、「経営戦略論入門」のタイトルにて80分の講義を行った。経営戦略とは何かを説明した上で、自らの受験について戦略を立てるミニ・ワークを行った。学生は、積極的に質問するなど熱心に取り組んでくれた。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	はじめてのマーケティング—いかに「差」づくりをするか—		
講 師	寺前 俊孝		
日 付	平成30年10月4日	場 所	倉敷南高等学校
対 象 者	高校2年生	参 加 人 数	57名
<p>(概 要) 企業は、「消費者とどう向き合っているのか」について、マーケティングの視点から考えるためのアプローチに関して事例を踏まえながら60分の講義を行った。講義の後、聴講された高校の生徒さんから、実務的な視点に基づいた質問が多く寄せられ、活発な議論を行うことができた。</p>			

所 属 (学部・学科)	短期大学 生活実践科学科		
タ イ ト ル	薄田泣菫と文豪たち		
講 師	加藤 美奈子		
日 付	平成30年8月27日	場 所	岡山県立岡山城東高等学校
対 象 者	3年生	参 加 人 数	22名
<p>(概 要) 同校「文学探究講座」の一環として、地域と関わる文学者への関心を深めることを目標に倉敷市出身の詩人・薄田泣菫に宛てた芥川龍之介書簡を中心に、泣菫と文学者達との交流を紹介しました。</p>			

学外組織との連携・協働

主 催	DANCE ALIVE 2018 (代表新山順子) 助成：福武教育文化振興財団、岡山県立大学地域貢献研究助成費 後援：岡山県立大学、総社市教育委員会		
タ イ ト ル	DANCE ALIVE 実行委員会		
実 施 者	新山順子(岡山県立大学)、岡本悦子 他		
日 付	平成 30 年 10 月 21 日	場 所	岡山県立大学
対 象 者	一般	参 加 人 数	出演者 20 名観客数 200 名
概要 (本文・写真・図等)			
<p>DANCE ALIVE 企画は、2015 年に「踊ることと生きることが等価である人たちの多様な創作表現の形」の創出を支援したい、そのことによって「新しいコンテンポラリーダンスに出会う場所」を岡山という地域に増やしていきたいという願いをコンセプトに、岡山県立大学新山順子先生を中心に就実大学岡本他を実行委員メンバーとして立ち上げた企画である。</p> <p>現在、岡山県内に限らず、岡山県と関わりをもつ県外者も含めて、大学時に創作表現としてのダンスに出会った卒業生の発表活動を支援している。彼らの創作に見られるオリジナリティの発芽を潰さずに、どう社会に開いていくか、社会に活力を与える作品に育つべく支援できるかを課題としている。</p>			

主 催	岡山県女子体育連盟（会長岡本悦子） 後援：岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、 岡山県文化連盟、（公社）日本女子体育連盟 協力：就実大学、就実短期大学 助成：（公財）福武教育文化振興財団		
タ イ ト ル	岡山県女子体育連盟第2回ダンス発表会		
実 施 者	岡山県女子体育連盟会員指導団体他、学校および地域団体		
日 付	平成31年2月17日	場 所	就実大学体育館2Fアリーナ
対 象 者	上記参加者約200名に 対し、観客動員約200名	参 加 人 数	左記
概要（本文・写真・図等）			
<p>岡山県女子体育連盟は、学校体育と社会体育が連携を持ち、生涯学習の観点から、主にダンス教育への貢献を目的として、平成24年に設立された組織である。</p> <p>現在、ダンスは細分化されて、多岐に専門化し、テクニックや見せ方を競い合うダンスコンクールが増え、隆盛している。本連盟では、その多様化を肯定する一方で、競争しない表現・個性の認め合いと共生に焦点を当てている。身体を誰もが平等に有し、一生付き合っていく財産と捉え、自己を自由に表現できる運動としてのダンス教育、年齢や性別を超え、障害を超えて、互いにそれぞれの表現・あり方を認め合い、繋がることのできるダンス教育を目指している。</p> <p>設立5年目にあたる平成28年度に第1回のダンス発表会を開催し、その2年後にあたる本年度の発表会は第2回目となる。再来年度（2020年度）には、本部にあたる公益社団法人日本女子体育連盟と共催する形で、岡山県女子体育連盟は、全国的なダンスセミナーの開催を計画しており、そのための準備企画として、今年度の企画を立案した。</p> <p>今回は出演として県内の小・中・高・大学の教育機関のみならず、学童保育や地域の社会体育を含む老若男女約200名が集った。</p> <p>第2回の特徴は多様な人々が集うだけでなく、積極的に交流することであり、そのために全員が参加する作品を創作し、指導してきた。</p> <p>日頃は裏方となる指導者たちにも出演を促した。総踊りは全国的にみても稀有であると来賓として招いた（公社）日本女子体育連盟会長高橋和子先生に高い評価をいただいた。</p>			

主	催	外務省		
タ	イ	トル		
実	施	者		
日	付	平成 30 年 7 月 25 日	場	所
対	象	者	参	加
		イスラマバード首都圏 選挙区	人	数
				15 名 (選挙監視団人員)

概要 (本文・写真・図等)

堀井巖外務大臣政務官を団長とし、黒田一敬・元 JICA 専門家 (選挙支援) と筆者の 2 名の専門家および外務省職員からなる計 15 名の選挙監視団が、パキスタンの下院・州議会議員選挙の投票日を挟んで、イスラマバード、ラーワルピンディを訪問した。

パキスタン下院は 2018 年 5 月 31 日をもって任期を終了し、6 月 1 日に発足した選挙管理内閣の下、2017 年の選挙管理法に則って下院および州議会の選挙が 7 月 25 日に実施された。2008 年に史上初めて下院が任期を全うして以来、今回で 3 度目の任期満了による選挙の実施となり、民主化プロセスが軌道に乗ったことを示している。今回の選挙は、いつもの二大全国政党 (PML-N と PPP) に新興政党 (PTI) を加えた三党を軸に、宗教勢力と地方政党をまじえて争う構図となり、得票の予測が様々取りざたされた。結果は、新興の PTI が大躍進を果たし、初めて政権を取る結果となった。清新な PTI の登場に、民主化の一段の進展を期待する有権者の意思が示されたものと考えられる。

治安の制約があり、イスラマバードとラーワルピンディ以外の地域へは出張できなかったものの、投票日には朝 8 時の投票開始前から 18 時の投票締め切り後の開票作業まで、14 箇所の投票所を訪れ、投・開票の様子を見守った。概ね規則に従い、投票の秘密が守られて整然と実施され、自由公正と評価できた。特に障害者、トランスジェンダーなど少数派の代表組織が選挙監視活動に参加していたこと、選挙管理委員会の職員や立会人として女性が中心に活躍していたことが印象的であった。



左：選挙管理委員会から投票所開設のための資材を受け取りに来た人々。 右：ラーワルピンディ選挙区の責任者 (Revisited Officer) と。(共にパンジャブ州ラーワルピンディで筆者撮影)

主 催	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	平成 30 年度就実大学教育学部初等教育学会地域貢献事業 公開学術講演会 「笑顔で築く信頼関係～大人が笑えば，子どもも笑う」		
実 施 者	塚原 成幸（清泉女学院短期大学幼児教育学科准教授・臨床道化師）		
日 付	平成 30 年 12 月 15 日	場 所	R601
対 象 者	初等教育学科学生 地域の方	参 加 人 数	約 300 名

概要（本文・写真・図等）

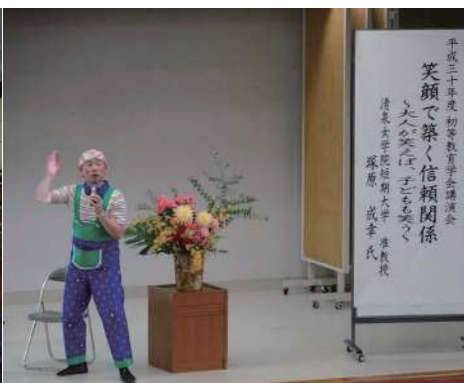
平成 30 年度の公開学術講演会は，清泉女学院短期大学幼児教育学科准教授の塚原成幸氏を講師にお招きした。

講師の塚原氏は，25 年以上，道化師として学校や病院で子どもを励ましながら，大学でも保育者の養成に取り組みされており今回の講演会では，「笑顔が紡ぎ出す人と人とのつながりについて」お話をいただいた。



受講された地域の方からは，次のような感想が寄せられた。

- ・人は楽しいから笑うのではなく，笑うから楽しいんだと言われたことが心に残りました。残りの人生，笑って過ごしたいと思いました。（岡山市無職）
- ・笑顔の重要性を改めて思い出させていただいたような気がします。今日のご講演で学んだことを今日から早速実践していきたいと思います。（岡山市学習支援員）
- ・現場に出て働くようになり，日々の忙しさの中でついつい見失いがちになっていたことを改めて大切にしていきたいと思えました。（鳥取県保育士）
- ・トラブルを怖がる性格でしたが，気持ちを変えてやっ払いこうと思います。人生が変わりそうです。勇気をありがとうございました。（岡山市無職）
- ・今日は，笑いについて，生きる姿勢ついて学ばせていただきました。息子は 21 歳と 19 歳になりましたが，母親の笑顔で幸せな気分になってもらえるように笑い続けようと思いました。（岡山市主婦）

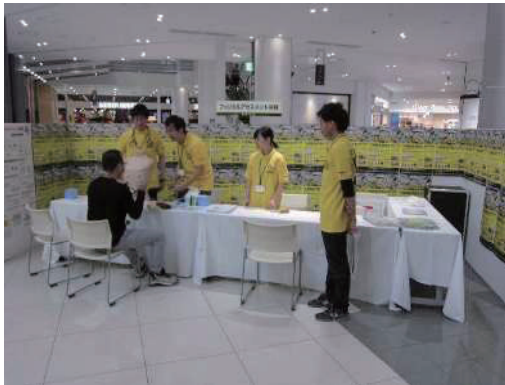


主	催	岡山コンソーシアム 吉備創生カレッジ		
行	事	吉備創生カレッジ講座		
講	師	柴田 隆司		
日	付	平成 30 年 10 月 14 日	場	所 山陽新聞さん太キャンパス
対	象	者 吉備創生カレッジ受講生	参	加 人 数 5 名
概要				
<p>テーマ：高齢者における薬の体内での動き</p> <p>高齢者における薬物動態と薬効について簡単な紹介をした。まず、一般論として薬物動態に関する因子を紹介した。さらにグレープフルーツジュースや納豆などの食物との相互作用を解説した。この点から、加齢に伴い、肝機能、腎機能が減退することにより、どのように変化するかを具体的に説明した。さらに、β受容体が加齢に伴い減少し、それにより点眼薬のような少量投与でも全身性の副作用を生じることを解説した。</p> <p>終了後、参加者からの質問に答える形で解説を加えた。血液サラサラの件では対処法についても紹介した。</p>				

主	催	岡山市薬剤師会					
行	事	薬物乱用防止キャンペーン					
講	師	齋藤啓太 (薬学部 講師)、石崎厚 (薬学部 助教)					
日	付	平成 30 年 10 月 14 日	場	所	イオンモール岡山		
対	象	者	参	加	人	数	約 200 名

概要

平成 30 年 10 月 14 日(日)、イオンモール岡山にて、岡山市薬剤師会主催第 7 回薬物乱用防止キャンペーンに薬学部から「フィジカルアセスメント体験」のブース出展を行った。薬学部教員 2 名とボランティア学生 4 名で参加し、呼吸時の肺内の音が聞こえるシミュレーターを用いて、正常時と肺炎時の音の違いの体験を行った。子どもから年配の方まで、幅広い年齢層の多くの方々が体験をしていただいた。約 200 名来場し、大麻などの薬物乱用による肺への障害による呼吸音の変化を感じてもらい、違法薬物使用の防止につながる啓発活動を行うことができた。また、就実大学薬学部をアピールする良い機会となった。



主	催	岡山市立福田公民館					
行	事	チャレンジワーク！お仕事体験教室					
講	師	齋藤啓太（薬学部 講師）、渡邊 政博（薬学部 助教）、加藤久登（薬学部 助教）、石崎厚（薬学部 助教）					
日	付	平成 30 年 12 月 1 日	場	所	岡山市立福田小学校		
対	象	小学生（3 年生～6 年生）	参	加	人	数	20 名

概要

平成 30 年 12 月 1 日（土）、岡山市立福田小学校にて、岡山市立福田公民館主催「チャレンジワーク！お仕事体験教室」に薬学部から「薬剤師になろう」の職業体験コーナーを行った。このイベントは、「勤労観や職業観を醸成し、将来を考える契機とする。」を目的とする福田公民館（岸律子館長）が主催する事業で、岡山市では福田小学校でのみ行われている。今年、小学生 232 名が 14 の職種からひとつ選んで体験を行った。「薬剤師さんになろう」のコーナーには 3 年生から 6 年生まで 20 名が参加し、就実大学からは教員 4 名と 6 名の学生スタッフが担当した。四つのグループに分かれ、「軟膏づくり」「水剤づくり」「粉薬の手分包」と「学校薬剤師の仕事」の体験を行った。白衣に身をつつみ、初めての体験をした小学生からは、「薬剤師さんの仕事について、わかってよかった。」「薬を作るのが楽しかったから大人になったら薬剤師になりたい。」など、体験に対する満足度が高かったというアンケート結果をいただき、薬剤師という仕事への興味を持っていただけたようである。今回の体験を通し、薬剤師という職業と就実大学薬学部をアピールする良い機会となった。



主 催	就実大学経営学部		
タ イ ト ル	プロジェクトベース学習「就実大学 UNOICHI 起業プロジェクト」		
実 施 者	経営学部学生		
日 付	平成 30 年 6 月 16 日他	場 所	玉野市宇野インフォメーションセンタ
対 象 者	観光客	参 加 人 数	延べ約 300 名

概要（本文・写真・図等）

H30 年度の経営学科では、特定非営利活動法人 UNOICHI 実行委員会と連携して「就実大・UNOICHI 起業プロジェクト」を実施した。ここでは「小さな起業をやってみよう」というコンセプトで実際にマーケティングや商品企画から、試作、販売、決算報告と一連の流れを実施した。

プリマーケティングでは本学の先輩である書家 國代峰泉(厚子)氏に UNOICHI の主旨にも合う「海」を画いて頂き、それを T シャツにプリントする方式で、実施した(図 1)。次いで、6 月 16 日土曜日は、素材を神代和紙保存会より得て和紙コースター体験を販売した。県北と県南の連合である。結構な人気で、山陽新聞の記事にもなった(図 2)。



図 1. T シャツ「海」販売



図 2. 中国新聞 6/17 号

さらにトートバッグ(図 3)とハーバリウム(図 4)である。これらは作り込みの物品販売と実際に作って頂く体験販売も実施した。雨のためインフォメーションセンター内部での体験と物品販売であった。物品も好評であったが、体験販売は親子連れが多くにぎやかな情景は今思い出しても楽しい。これらは、5 月 3 日のプリマーケティングの結果、若者対象が最良であるとの分析と考察から特にインスタ映えする商品のアイデア出し、構想、試作、信頼性試験などを行い販売にこぎ着けた。



図 3. トートバッグ「海」



図 4. ハーバリウム体験

最後に 3 つのグループ毎に、実施報告をプレゼンし、さらに起業プロセスを考慮した実施報告書を執筆して終えた。学生の声を代表すると、「しんどかったが今までの座学とは違う難しさと楽しさを学んだ」。「起業体験は今までにない可能性を感じる」などである。玉野市築港地域の方々、UNOICHI 実行委員会理事長をはじめ委員会の方々、先輩で書家の國代峰泉さん、神代和紙保存会や(株)トンボの方々の協力に感謝する。

主 催	岡山 EU 協会、岡山県中小企業団体中央会、就実大学		
タ イ ト ル	就実グローバル・フォーラム 2018 「VUCA 世界における日本の選択」		
実 施 者			
日 付	平成 30 年 11 月 3 日	場 所	就実大学 S 館 102
対 象 者	EU 協会会員、一般、学生	参 加 人 数	約 200 名

概要（本文・写真・図等）

11月3日、ビルエモット氏（元英エコノミスト誌編集長）、クオンタムリープ株式会社代表取締役
 役ファウンダー&CEO（元ソニー株式会社社長）出井伸之氏の両客員教授に加えて京都大学客員教
 授グレン・S・フクシマ氏（元在日米商工会議所代表）を加え、岡山 EU 協会及び岡山県中小企業
 団体中央会との共催で、就実グローバル・フォーラム 2018 として実施した。

世界情勢がVUCA{Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)}による混迷を深める中、世界情勢と日本の進むべき方向を議論した。エモット氏は欧米で
 貧富の格差や移民に対する不満が高まり、英国のEU離脱問題、トランプ大統領の東城に繋がったと説
 明。米中の貿易摩擦は世界経済全体に害を及ぼす可能性があると指摘。フクシマ氏は世界が多次元化す
 る中で、日本外交は米国だけでなく多様な国々との関係を強化する必要があると指摘した。出井氏は、
 米中のIT企業の躍進に触れ「日本企業が遅れをとらないよう行政も後押しすべき」と述べた。

当日は、学生、岡山経済同友会会員、一般市民も含め200人の参加者が熱心に聴講した。

<内容>

基調講演Ⅰ ビル・エモット氏 「「VUCA世界～EU・BREXITの視点～」

基調講演Ⅱ グレン・S・フクシマ氏 「VUCA世界～アメリカの視点～」

基調講演Ⅲ 出井 伸之氏 「VUCA世界～日本・アジアの視点」

パネルディスカッション

ビル・エモット氏、グレン・S・フクシマ氏、出井伸之氏

進行：（杉山慎策・就実大学教授・副学長・経営学部長）



主 催	おかやま COC+推進協議会（代表：岡山県立大学）		
タ イ ト ル	「10年後の会社経営を考える経営者支援セミナー」		
実 施 者			
日 付	平成30年10月31日	場 所	笠岡商工会議所
対 象 者	企業関係者、一般市民	参 加 人 数	30～40名

概要（本文・写真・図等）

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、笠岡市、笠岡商工会議所の共催で実施した。岡山県立大学デザイン学部と就実大学経営学部が互いの教育資源を活用して、企業の経営力向上と地域創生に繋がる統合的ブランディングを目的として実施している。

経営学部から10月31日、真田正次准教授が「事業承継と経営分析」と題した講座を開催した。事業承継を円滑に進めるためには正しい経営状況の把握が重であり、そのために必要な経営分析について説明した。

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

「10年後の会社の姿を考える」経営者支援セミナー

岡山県立大学デザイン学部と就実大学経営学部が互いの教育資源を活用して、企業の経営力向上と地域創生につながる統合的ブランディングを目的とする全2回のセミナーです。

対象 笠岡市内中小企業経営者及び後継者の方
(定員20名)

会場 笠岡商工会議所 2階会議室
(笠岡市十一番町3-3)

費用 無料

共催 岡山県立大学・就実大学
笠岡市・笠岡商工会議所

第1回 2018 10月31日

時間 13:30～15:00

講師 **事業承継と経営分析**

講師 就実大学経営学部(准教授) 真田 正次氏

事業承継に悩んでいる方にオススメ!

会社も家族も同じで悩むことはたくさんあります。中小企業は家族経営。企業承継が成功には欠かせないノウハウはみんな、経営現場で培われてきたノウハウが伝えます。このため、会社や経営者の話を聴き、経営学部の知識を学ぶことにより、**迷った事業承継が解決します。**

第2回 2018 11月14日

時間 13:30～15:00

講師 **顧客志向のデザインプロセス**

講師 岡山県立大学デザイン学部(教授) 林 秀紀氏

売れる商品づくりに悩んでいる方にオススメ!

デザインには、「よく見て、よく聞いて」を心がけてもらうために利用者の生活場面に立って発想し、すでにある悩みを解決し、心が伝わる商品開発を行う必要があります。本講座では、これからの市場で**売れる商品開発の**道を学んでいただきます。

主 催	岡山県立大学地域共同研究機構 COC+推進室		
タ イ ト ル	「10年後の会社を考える」経営者支援セミナー（第1回）：事業承継と経営分析		
実 施 者	真田正次		
日 付	平成30年10月31日	場 所	笠岡商工会議所
対 象 者	中小企業の経営者	参 加 人 数	13名
概要（本文・写真・図等）			
<p>概要：</p> <p>本セミナーでは、「事業承継と経営分析」について講義を行った。事業を承継するにあたって、中小企業の後継者の方にもっとも不足している知識の一つに、「会計・経営分析」があるといわれている。もちろん、後継者の方は承継対象となる事業の業務内容や技術に精通している。ただし、会計学や経営分析の知識にふれる機会がこれまでなかったという状況は容易に想像できる。そのため、本セミナーでは、会計学の初歩的な説明からはじめて、参加者の方に財務諸表の構造や経営分析の基本的な指標に関する理解を深めていただくことを目的とする。</p> <p>具体的には、第一に会計に関する定義について説明した。会計とは「特定の経済主体の経済活動を、貨幣額などを用いて計数的に測定し、その結果を報告書にまとめて利害関係者に伝達すること」と定義されているが、わかりやすくパラフレーズして、「会社の成績表を作成、公表、および／または分析すること」と説明した。</p> <p>第二に、基本的な財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、およびキャッシュ・フロー計算書について、その構造と役割に関する説明を行った。最後に、会計数値を使った企業分析の方法について初歩的な説明を行うとともに、具体的な企業の数値を使って収益性、効率性、安全性などの変化に関する分析を行った。</p>			

主 催	岡山市 市民働局市民協働部 女性が輝くまちづくり推進課		
タ イ ト ル	学生のためのワーク・ライフ・バランス講座		
実 施 者	共催：就実キャリアセンター、コーディネーター：三浦紗綾子		
日 付	平成 30 年 11 月 9 日	場 所	R306
対 象 者	大学生	参 加 人 数	20 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>現役で活躍されている社会人 3 名が、学生と、仕事・家事・育児について「本音」で話し合う講座を開催した。一般財団法人涼風会、株式会社ビザビ、株式会社中国銀行より各 1 名をお招きし、座談会とグループ討議を行った。座談会では、経営学部講師がコーディネーターを務めた。</p> <p>経営学部を中心に 20 名の学生の参加があった。</p> <p>グループ討議では、学生が 3 グループに分かれ、講師の先生と自由に質疑応答を行った。</p> <p>アンケートの結果は好評で、この講座によって仕事・家事・育児の現実を知ることができたとのコメントが多く見られた。</p>			

主 催	幼児教育学科		
タ イ ト ル	岡山県委託事業 保育者養成施設連携強化事業(保育士就業支援及び離職防止)		
実 施 者	幼児教育学科全教員		
日 付	平成30年6月4日～ 平成31年3月29日	場 所	就実短期大学及び卒業生の勤務園
対 象 者	本学卒の若手保育士	参 加 人 数	136名

概要（本文・写真・図等） 意見交換会、里帰りトーク会

今年度は、岡山県の委託事業として、若手保育士を対象とした就業状況等の調査、仕事の悩み等への助言実施、意見交換会等の開催を通じて、保育士の実業継続支援・離職防止のための課題の洗い出しとその対応方法を検討し、報告書にまとめました。

1. 保育士就業状況実態調査及び巡回相談の実施

幼児教育学科の若手卒業生が在職する43保育所・認定こども園、102名に対して、本学科教員及びキャリアセンターの職員が7月～10月間にかけて、就業状況の聞き取り及び紙面調査を実施しました。併せて各保育士に対して相談・助言を行いました。その結果は報告書にとりまとめ、若手保育士の就業継続支援及び保育現場の環境改善に必要な施策等を検討する資料として岡山県に報告し、県内の保育所、認定こども園、保育士養成校、市町村にも配布し、活用されました。

2. 若手保育士意見交換会

1) 保育所等に就業後10年目（主に20歳代）までの若手保育士を対象とした、就業継続や離職防止をテーマに意見交換会を8月18日開催しました。参加者は今春の卒業生2名でした。仕事を続ける上で大きな悩み等を持っている卒業生の話に耳を傾け、個別対応も行いました。

2) 「里帰りトーク会」は保育所等に就業後10年目までの若手保育士を対象として就業継続支援、離職防止に係る意見交換会で、大学祭2日目の10月28日開催しました。参加者は今春の卒業生から5年前の卒業生まで24名でした。同窓生や教員と職場での楽しいこと、大変なこと、保育所や幼稚園で担任している子どもたちのかわいさ自慢等で話が盛り上がりました。この会は、若手保育士に陥りやすい早期離職を防ぐためのケアやサポートの場としても教員は関わっています。今後も卒業生と学科のつながりを大事にして、気軽に訪ねることができる場として活用していきたいと考えています。

3. 潜在保育士意見交換会

潜在保育士復職支援・卒後リカレント教育研修会のプログラムの中で、就業支援・離職防止に係る意見交換会を9月8日開催しました。参加者は8名でした（詳細は学科行事参照）。



〈意見交換会〉



〈里帰りトーク会①〉



〈里帰りトーク会②〉

主	催	SCO 同好会、キッズタウン SHUJITSU 実行委員会		
タ	イ	ト	ル	キッズタウン SHUJITSU2018
実	施	者	就実短期大学 生活実践科学科 小田奈緒美	
日	付	平成30年9月16～17日	場	所 就実大学 T館 1～4階
対	象	者	4歳～小学6年生	参 加 人 数 両日で約400名

概要（本文・写真・図等）

若年層への体験型消費者教育イベントとして「キッズタウン SHUJITSU2018」を開催した。

昨年、京山公民館で同様のイベントを実施した際に、保護者や子ども達から「来年も実施してほしい」との要望を受け、本学学生が同好会を設立し、実施に向けて準備や検討を行った。

事前の子ども会議を7月14日、8月28日の2回開催し、7月14日には事前説明会やこども市長選挙を実施したのちに販売商品の投票を行った。市長選挙には26名の立候補者があり、選挙管理委員会の方のご協力により本物の投票箱に投票する等の結果、こども市長が選ばれた。また、8月28日には、前回の子ども会議で選ばれた商品づくりや、食中毒や食物アレルギー、包丁やはさみなどの安全な扱い方の説明や市議会の報告を行った。それぞれ100名以上の参加があった。

事前申し込みは350名以上あり、当日は各日200名程の子どもたちが参加した。また、子どもたちをフォローするボランティアは就実大学・短期大学のSCO同好会45名以上、就実中学校・高等学校、岡山南高等学校、岡山後楽館高等学校から60名程の参加があった。

9月16日は、10時に子ども市長による開会式が行われ、11時には大森市長から子ども市長への任命式も行われた。今年の市民総会で決まったキッズタウンの遊び方は、まず子どもたちが市民登録をすると市民証とお祝い金の100ピーチをもらうことができる。次に、まちでの遊び方についてオリエンテーションを受けたらハローワークに行き、選んだお仕事をやる。仕事がない時は子ども大学で勉強をしたり、遊んだり、買い物をしたりできる。働くか勉強をすれば銀行でお給料をもらえ(30分で100ピーチ)、税務署で税金を納める(20ピーチ)と次の仕事ができる。残ったお金は自由に使うことができる。まちは15時には終了し、その後振り返りとして市民総会を開き、売上人数やお店選挙の投票結果を発表するとともに、参加者は感想を発表しあった。

子どもたちは、税金や社会のしくみについて、楽しみながら学ぶことができたようであり、アンケートでは次回も開催を求める声が多くみられ、保護者からは90%実施を望む結果であった。



主	催	就実大学天文部、岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア		
タ	イ	月面 X 観望会、火星観望会、中秋の名月観望会		
実	施	就実大学天文部（顧問：薬学部 中西 徹）、岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア		
日	付	平成 30 年 5 月 22 日、8 月 30 日、9 月 24 日、11 月 15 日	場	所 イオンモール岡山
対	象	者 一般	参	加 人 数 500 名（総計）

概要（本文・写真・図等）

平成 30 年 5 月 22 日（火）に「月面 XLV 観望会」を、また 11 月 15 日（木）には「月面 X 観望会」を、就実大学天文部と人と科学の未来館サイピア共催で、イオンモール岡山 5 階のハレマチガーデンを会場に開催しました。ハレマチガーデンに約 8 台の天体望遠鏡を並べて月面 X の観測を行いました。最近、X 以外にも L や V の文字が見えるという報告があり、それらも見えるかどうか試してみました。両日とも天候に恵まれて観測は成功しました。天体望遠鏡で見るときれいに黄色に光る X が月面に現れて、ハレマチガーデンに集まった親子連れや買い物客が次々と天体望遠鏡の回りに集まって列をつくり、順番に神秘的な月面 X に見入っていました。推定参加人数は各回約 150 人。

平成 30 年 8 月 30 日（木）就実大学天文部と人と科学の未来館サイピア共催で、大接近中の火星観望会を、イオンモール岡山 5 階のハレマチガーデンを会場に行いました。地球と火星が 15 年ぶりに大接近して、最小時の 5 倍も大きく見える観望のチャンスで、多くの人が集まりました。天体望遠鏡から見える火星はそれでも小さいものでしたが、かすかに表圏の模様も見えて、子供達も大喜びでした。夏休みのよい思い出になったかも知れません。天文部の学生も頑張って解説をしました。推定参加人数は約 100 人



平成 30 年 9 月 24 日（月祝）に昨年が続いて「中秋の名月観望会」を開催しました。今回も、就実大学天文部と人と科学の未来館サイピア共催で、イオンモール岡山 5 階のハレマチガーデンを会場に観望会を行いました。当日はあいにくの天候でしたが、計 6 台の天体望遠鏡をハレマチガーデンに設置して中秋の名月の出現を待ちました。各望遠鏡には長蛇の列ができましたが、残念ながらこの日はあまりきれいな満月を見ることはできませんでした。それでも、来場した方は資料を見たり、天体望遠鏡の説明を聞いたりして、天文に親しむ時間を過ごしました。11 月の月面 X 観望会に向けて期待する声も多く聞かれました。推定参加人数は約 100 人

主	催	大学コンソーシアム岡山		
タ	イ	ト	ル	下記の地域貢献活動
実	施	者	大学コンソーシアム岡山加盟各大学ならびに岡山県・岡山市等	
日	付		場	所
対	象	者	参	加
人数				
概要（本文・写真・図等）				
<p>本学は大学コンソーシアム岡山加盟校として、様々な地域貢献に関する活動を行っている。以下に主なものを示す。それぞれの詳細は省略する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉備創生カレッジ（通年，さん太キャンパス，山陽新聞社との連携事業） ・ 日ようび子ども大学（2018年6月3日，岡山県生涯学習センター） ・ エコナイト（2018年7月14日，奉還町商店街） ・ 平成30年7月西日本豪雨災害学生ボランティア報告会（2018年11月17日，岡山大学） ・ 岡山県合同企業説明会（2019年3月8日，ジップアリーナ岡山，岡山県中小企業団体中央会共催） 				

主	催	人文科学部		
タ	イ	倉敷考古館との連携事業		
実	施	中西裕・浅利尚民（以上表現文化学科）・武部好子・王祖茜（以上実践英語学科）・松崎博子（総合歴史学科）ならびに土井通弘名誉教授		
日	付	平成 30 年度	場	所
対	象	倉敷考古館	参	加 人 数
名				
概要（本文・写真・図等）				
<p>本学人文科学部と公益財団法人倉敷考古館（香川俊樹館長）との連携協定に基づき、28 年度にスタートした同館所蔵安養寺経塚出土品（瓦経）の再調査を継続し、展示解説の多言語対応や展示 IT 化に取り組むとともに、館蔵図書整理の準備等をおこなった。</p> <p>瓦経は昨年に引き続き、土井名誉教授・浅利准教授が博物館学芸員課程の学生を指導して、経典を特定するために劣化している経文の解説を行った。あわせてデジタルカメラで現状の記録写真を撮影後に台紙・包紙等で養生し、今後の保存に資する作業をおこなった。参加学生数はのべ約 108 名であった</p> <p>収蔵品データベースの整備と展示の情報化については中西教授が担当した。文化庁の「文化遺産オンライン」のシステムを活用して、常設展示品から年度内に整備を開始し、展示の情報化については瓦経の高精細デジタル映像のデータを用いた効果的な展示を年度内に実施する予定である。</p> <p>解説の多言語化のうち英訳については、館より依頼された展示解説文について、実践英語学科武部准教授の指導のもと昨年度に後期授業「翻訳演習 2」の課題として行った日本語から英語への翻訳を引き続き進めている。大学で行う自分達の翻訳が実社会で展示される可能性がある点は、受講生の学習意欲や地域貢献意欲を高めている。</p> <p>展示解説の中国語翻訳について王祖茜講師の指導のもと H29 年は中国語中級の履修者（15 名）や課外活動グループ「中国語勉強会」の 6 名の学生が取り込み粗訳した。「展示解説の中国語訳文を早期に活用したい」という倉敷考古館（香川俊樹館長）側のご希望により、H30 年 9 月に完成した中国語訳文を倉敷考古館に提出した。</p> <p>館蔵図書の整理に関しては、松崎准教授の指導のもと図書館司書科目「情報資源組織論」の課題として、受講生 131 名が書架の配置および書架上の配列について検討した。</p>				

主	催	人文科学部		
タ	イ	トル	林原美術館との連携事業	
実	施	者	浅利尚民（表現文化学科）・武部好子（実践英語学科）	
日	付	平成 30 年度	場	所
対	象	者	参	加
		林原美術館	人	数
			名	
概要（本文・写真・図等）				
<p>本学人文科学部と一般財団法人林原美術館（谷一尚館長）との連携協定に基づき、『林原美術館名品選』解説文の英語への翻訳作業、本学学芸員資格課程受講者による同館の展示替え作業の補助、特別講演会での講演等を行った。</p> <p>解説の英訳については、武部准教授が担当した。カタログ『林原美術館名品選』掲載の解説文について、実践英語学科武部准教授の指導のもと後期授業「翻訳演習 2」の課題として、実践英語学科 30 名の受講生が協力しながら日本語から英語への翻訳を進めている。大学で行う自分達の翻訳が実社会で展示される可能性がある点は、受講生の学習意欲や地域貢献意欲を高めている。</p> <p>展示替え作業の補助については、浅利准教授が担当した。平成 30 年 11 月 7 日・8 日の両日に行われた企画展「王朝文学への憧れ一歌・物語に染まる、もののあはれ一」の展示替え作業に、学芸員資格課程を受講している 5 名の学生が参加し、展示台の移動やキャプション作成などの作業を行った。</p> <p>特別講演会については、浅利准教授が担当した。特別講演会「手紙からわかる戦国時代一石谷家文書を読み解く一」において、5 年前に発見された同館所蔵の石谷家文書の意義やその後の研究の広がり等について話し、あわせて同館企画展「鳥ノアト」で展示中の資料についても解説を行った。</p>				

主 催	岡山市中区役所、就実大学・就実短期大学		
タ イ ト ル	岡山市中区役所と就実大学・就実短期大学との連携協定		
実 施 者	岡山市中区役所区長、就実大学・就実短期大学長		
日 付	平成30年5月30日	場 所	岡山市中区役所
対 象 者		参 加 人 数	6名

概要（本文・写真・図等）

岡山市中区役所と就実大学・就実短期大学は、平成30年5月30日、中区の地域づくり、防災や教育などの分野に関する包括的な連携協定を締結しました。調印式は、高橋克行区長と、片岡就実大学・就実短期大学長により行われました。

この協定は、就実大学・就実短期大学と岡山市中区とが、包括的な連携のもと互いに研究、協議を行ない、中区の地域づくり、地域の防災、相互の教育及び人材の育成などを行うことを目的としています。

【連携協定の内容】

- (1) 地域づくりに関すること
- (2) 地域の防災に関すること
- (3) 相互の教育及び人材の育成に関すること
- (4) その他双方が必要と認めること



各種学外委員会の応嘱

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川 崎 剛 志
内 容	①日本山岳修験学会 理事 ②説話文学会 委員 ③神戸女子大学古典芸能研究センター 客員研究員 ④国文学研究資料館地域資料専門部分 委員 ⑤国際熊野学会 委員				
期 間	①平成23年10月1日～（評議員）、平成25年10月1日～現在（理事） ②平成27年4月1日～現在 ③平成27年4月1日～現在 ④平成30年4月1日～現在 ⑤平成30年4月1日～現在				

所 属	表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	岡 本 悦 子
内 容	①岡山県女子体育連盟 会長 ②岡山県現代舞踊連盟 顧問 ③（公財）福武教育文化振興財団文化活動助成 審査委員 ④子どもの社会参加を考える会in京山（通称チューリップの会） 副会長 ⑤中国電力会社岡山営業所アドバイザー ⑥第4回おかやま現代舞踊フェスティバル審査員				
期 間	①平成24年4月1日～現在 ②平成14年～理事、平成17年～副会長、平成21年～平成23年会長、平成24年～現在顧問 ③平成28年2月～現在 ④平成20年～現在 ⑤平成22年4月1日～現在 ⑥平成31年3月17日				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	浅 利 尚 民
内 容	①閑谷学校研究委員会委員 ②弘法寺脚供養総合調査委員会現地調査員 ③尾道市史編集委員会文化財専門部会執筆者				
期 間	①平成21年4月1日～現在 ②平成29年12月～現在 ③平成30年4月1日～現在				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	講 師	氏 名	丸 井 貴 史
内 容	①国文学研究資料館地域資料専門部会委員				
期 間	①平成30年5月1日～現在				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	准教授	氏 名	中 塚 朋 子
内 容	①早島町公民館モデル検討懇談会委員				
期 間	①平成29年12月26日～平成31年3月31日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	高 橋 文 博
内 容	①一般財団法人 岡山県牛窓海洋スポーツ振興会理事 ②一般財団法人 淳風会 健康管理センター 倫理委員会委員 ③一般社団法人 高等教育国際基準協会 理事 ④独立行政法人 労働者安全福祉機構 岡山労災病院 倫理委員会委員 ⑤岡山大学治験審査委員会委員 ⑥岡山大学医療系部局生命倫理審査委員会臨床研究審査専門委員会委員 ⑦岡山大学未承認新規医薬品・医療機器評価委員会委員 ⑧岡山大学医療系部局生命倫理審査委員会研究倫理審査専門委員会委員 ⑨NPO 法人 ヘルスサイエンス地域国際センター理事、NPO 法人 口腔健康科学ネット理事				
期 間	①2010年6月－現在 ②2015年4月－現在 ③2013年12月－現在 ④2010年4月－現在 ⑤2018年4月－現在 ⑥2018年4月－現在 ⑦2018年4月－現在 ⑧2018年4月－現在 ⑨2014年4月－現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博文
内 容	①兵庫教育大学岡山会 理事 ②岡山県小学校教育研究会岡山支会算数部会 顧問 ③新興出版社啓林館 教科書協力著者				
期 間	①平成25年4月1日～現在 ②平成28年4月1日～現在 ③平成30年4月1日～平成31年9月30日				

所 属	初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	村 田 恵 子
内 容	①社会福祉法人弘徳学園評議員 ②社会福祉法人閑谷福祉会評議員 ③社会福祉法人新天地育児院評議員 ④瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員				
期 間	①平成29年4月1日～現在 ②平成29年4月1日～現在 ③平成29年4月1日～現在 ④平成28年4月1日～現在				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 み ち る
内 容	①岡山市学校問題解決サポート事業 専門相談員 ②岡山県教育委員会スクールカウンセラー配置事業 スーパーバイザー ③瀬戸内市子ども包括支援推進協議会委員				
期 間	①平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②平成30年4月1日～平成31年3月31日 ③平成30年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	岡 田 信 吾
内 容	①岡山県特別支援教育巡回相談員専門家チーム員 ②倉敷市特別支援教育専門家チーム員				
期 間	①平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②平成30年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	森 村 和 浩
内 容	①「運動」を通じた鍛ほめプロジェクト推進委員(福岡県教育委員会) ②「運動」を通じた鍛ほめプロジェクトリサーチメンバー(福岡県教育委員会)				
期 間	①平成29年度5月15日～現在 ②平成29年度5月15日～現在				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	井 芹 聖 文
内 容	①公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成のための大学院専門職学位課程判定委員会幹事 ②公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会指定大学院実地視察審査委員 ③公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会大学院指定継続申請書類審査委員 ④京都文教大学心理臨床学会監査員				
期 間	①平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②平成29年4月1日～現在 ③平成30年4月1日～現在 ④平成29年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	塩 田 澄 子
内 容	①岡山市教育委員会委員 ②岡山市男女共同参画推進センター(さんかく岡山)運営委員会委員長 ③岡山市社会福祉審議会委員 ④岡山市薬剤師会常任理事 ⑤岡山市薬剤師会オープンフォーラム委員会委員 ⑥日本細菌学会中国四国支部会評議員 ⑦日本薬学会薬学教育委員会委員 ⑧日本薬学会中国四国支部代議員 ⑨日本薬学会全国学生ワークショップ実行委員 ⑩日本薬学会若手薬学教員のためのアドバンスワークショップ実行委員 ⑪日本薬学会中国四国支部会計幹事 ⑫薬学教育協議会 微生物学教科担当教員会議世話人				
期 間	①平成22年10月4日～平成30年10月3日 ②平成22年4月1日～現在 ③平成29年4月1日～平成31年3月31日 ④平成27年4月1日～現在 ⑤平成19年4月1日～現在 ⑥平成16年4月1日～現在 ⑦平成27年4月1日～平成30年3月31日 ⑧平成27年4月1日～現在				

⑨平成23年4月1日～現在
⑩平成28年4月1日～現在
⑪平成30年2月1日～平成31年1月31日
⑫平成28年4月1日～現在

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴 田 隆 司
内 容	①岡山県薬剤師研修協議会 ②平成30年7月西日本豪雨災害学生ボランティア報告会 実行委員				
期 間	①平成26年～現在 ②平成30年度のみ				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	片 岡 洋 行
内 容	①薬学教育協議会分析化学系教科検討委員会委員 ②Analytica Chimica Acta: Editorial Advisory Board member (Elsevier) ③Analytical Chemistry Letters: Editorial Board (Vinayak-Graphics) ④Journal of Environmental & Analytical Toxicology: Editorial Board Member (OMICS) ⑤日本分析化学会中国四国支部幹事 ⑥おかもやまバイオアクティブ研究会幹事 ⑦Analytical Methods in Chemistry Editorial Board Member (Hindawi) ⑧Editorial Board Member of Chromatography (Japan) ⑨クロマトグラフィー科学会評議員 ⑩Permanent Contributing Editors in Trends in Analytical Chemistry (Elsevier) ⑪薬学教育評価機構評価実施委員 ⑫Editorial Board Member of Journal of Translational Biomarkers & Diagnosis (SciDoc Publishers) ⑬Editorial Board Member of Journal of Bioanalytical Techniques (Sciforschen) ⑭日本私立短期大学協会中四国支部評議員 ⑮日本私立大学協会中四国支部評議員 ⑯国際化を進める岡山中央協議会理事 ⑰岡山県薬事審議会委員部会長 ⑱岡山県私立短期大学協会会長 ⑲日本私立短期大学協会常任理事・中四国支部副会長 ⑳日本私立大学協会評議員 ㉑Editorial Board Member of Journal of Biochemistry and Analytical Studies (Sciforschen) ㉒岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会会長 ㉓Editorial Advisory Board Member of Journal of Chromatography A (Elsevier) ㉔Editorial Board Member of Molecules (MDPI)				
期 間	①平成15年4月1日～現在 ②平成21年1月1日～現在				

- ③平成23年1月1日～現在
- ④平成23年4月1日～現在
- ⑤平成23年4月1日～現在
- ⑥平成23年4月1日～現在
- ⑦平成23年11月1日～現在
- ⑧平成24年4月1日～現在
- ⑨平成24年4月1日～現在
- ⑩平成24年4月1日～現在
- ⑪平成26年4月1日～現在
- ⑫平成27年10月1日～現在
- ⑬平成27年10月1日～現在
- ⑭平成27年4月1日～現在
- ⑮平成27年4月1日～現在
- ⑯平成27年4月1日～現在
- ⑰平成27年4月1日～現在
- ⑱平成30年4月1日～現在
- ⑲平成30年4月1日～現在
- ⑳平成28年4月1日～現在
- ㉑平成29年1月1日～現在
- ㉒平成30年10月19日～現在
- ㉓平成30年5月1日～現在
- ㉔平成30年11月1日～現在

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	西 村 多美子
内 容	①日本薬理学会 学術評議員 ②私立薬科大学協会学生部長会委員 ③薬学教育評価機構 評価実施員				
期 間	①昭和62年より現在 ②平成29年4月より現在 ③平成27年より現在				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	見 尾 光 庸
内 容	①大学コンソーシアム岡山運営委員会副委員長 ②大学コンソーシアム岡山企画会議副委員長 ③大学コンソーシアム岡山将来構想委員会委員 ④公益財団法人おかやま観光コンベンション協会理事 ⑤薬学教育協議会薬理学関連教科担当教員会議委員 ⑥日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会薬理学部会委員				
期 間	①平成30年4月1日～平成32年3月31日 ②平成30年4月1日～平成32年3月31日 ③平成27年4月1日～平成32年3月31日 ④平成28年7月1日～平成30年6月30日 ⑤平成15年度～継続中 ⑥平成19年度～継続中				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
内 容	①岡山県環境放射線等測定技術委員会委員 ②(社)日本アイソトープ協会本部企画委員 ③主体的学び研究所 客員フェロー ④Pasteur Society Japan (日本パスツール協会) プレスリリース日本語版作成委員 ⑤日本軟骨代謝学会評議員 ⑥日本生化学会評議員 ⑦硬組織再生生物学会理事 ⑧日本食品衛生学会理事 ⑨おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員 ⑩Editorial Board of Pathology and Laboratory Medicine ⑪ASEAN-JAPAN ゲノム医療研究推進国際会議開催委員長 ⑫第114回日本食品衛生学会学術大会実行委員				
期 間	①平成22年4月1日～ ②平成26年4月1日～ ③平成27年4月1日～ ④平成15年4月1日～ ⑤平成11年3月1日～ ⑥平成17年10月1日～ ⑦平成16年10月1日～ ⑧平成25年3月1日～ ⑨平成25年10月11日～ ⑩平成28年11月1日～ ⑪平成29年10月1日～平成30年7月11日 ⑫平成29年11月1日～平成30年11月16日				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	洲 崎 悦 子
内 容	①津山洋学資料館 協議会委員				
期 間	①平成22年4月1日～平成32年3月31日(予定任期)				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡 辺 雅 彦
内 容	①日本気象予報士会岡山支部長 ②日本環境変異原学会評議員 ③日本環境変異原学会編集委員				
期 間	①2007年3月31日～現在 ②2016年1月1日～現在 ③2016年1月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
内 容	①岡山県薬剤師会 アンチ・ドーピング小委員会委員 ②岡山県空手道連盟 専属スポーツファーマシスト ③薬学共用試験 CBT実施委員				
期 間	①平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②平成30年4月1日～平成31年3月31日 ③平成30年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	薬学部	職 位	講 師	氏 名	齋 藤 啓 太
内 容	①岡山市薬剤師会主催薬物乱用防止キャンペーン				
期 間	①平成30年8月1日～平成30年11月30日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	田 坂 祐 一
内 容	①岡山県薬剤師会 おかやま薬学フォーラム実行委員				
期 間	①平成30年12月20日～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野 本 明 成
内 容	①岡山市公の施設の指定管理候補者選定委員会委員 ②笠岡市施策評価委員会委員				
期 間	①平成29年6月17日～平成31年6月16日 ②平成30年8月1日～平成30年9月30日				

所 属	経営学部	職 位	教 授	氏 名	杉 山 慎 策
内 容	①岡山市経済政策審議会等委員 ②岡山市基本政策審議会委員 ③岡山県立城東高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員 ④つやま産業支援センター運営協議会会長 ⑤津山市観光戦略アクションプラン策定委員会委員 ⑥公益財団法人中島記念財団 ⑦津山市歴史文化基本構想等審議会委員 ⑧岡山県中小企業振興審議会委員 ⑨中国ニュービジネス大賞表彰制度にかかる審査会委員 ⑩ビジネスプランコンテストおかやま2018審査委員				
期 間	①平成28年11月15日～平成30年11月14日 ②平成28年11月15日～平成32年11月14日 ③平成28年4月1日～平成31年3月31日 ④平成28年4月1日～平成31年3月31日 ⑤平成28年4月1日～平成31年3月31日 ⑥平成28年4月1日～平成31年3月31日 ⑦平成29年11月20日～平成31年3月31日 ⑧平成30年1月12日～平成31年3月31日 ⑨平成30年2月1日～平成31年4月30日 ⑩平成29年7月1日～平成31年3月31日				

所 属	経営	職 位	教 授	氏 名	三 枝 省 三
内 容	①イノベーション人材育成事業「広島県未来チャレンジ資金」面談アドバイザー				
期 間	①平成30年度4月から年間4回の審査会				

所 属	経営学部経営学科	職 位	教 授	氏 名	大 崎 泰 正
内 容	①特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド監事 ②岡山市中区区づくり推進事業審査会委員長 ③山田方谷研究会理事（任意団体）				
期 間	①平成14年～ ②平成28年度より副委員長、平成30年度より委員長 ③平成24年度から				

所 属	経営学科	職 位	教 授	氏 名	林 俊 克
内 容	①平成30年度スーパーグローバルハイスクール運営指導委員 ②岡山市経済政策審議会委員				
期 間	①平成30年4月2日～平成31年3月31日 ②平成30年11月15日～平成32年11月14日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加賀美 太 記
内 容	①くらしと協同の研究所 研究委員・『くらしと協同』編集委員 ②くらしと協同の研究所 理事・運営委員・企画委員				
期 間	①平成26年6月1日～現在 ②平成29年6月1日～現在				

所 属	経営学部	職 位	講 師	氏 名	三 浦 紗 綾 子
内 容	①岡山市女性活躍推進協議会 副座長				
期 間	①平成30年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
内 容	①瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会				
期 間	①平成30年4月1日～平成32年3月31日				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
内 容	①岡山県新進美術家育成「I氏賞」推薦委員 ②広島県立美術館評価委員会 委員				
期 間	①平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②平成30年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	就実短期大学 生活実践科学	職 位	教 授	氏 名	岡 本 己 恵 子
内 容	①岡山県国民保護協議会委員				
期 間	①2018年4月1日～2019年5月11日				

講師の派遣

所 属	表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	岡 本 悦 子
実 施 日	①平成30年8月1日				
事業主催者（依頼元）	①高知県教育委員会				
タ イ ト ル	①平成30年度体育指導者講習会（ダンスの部） <学習指導要領を踏まえた講義及び実技指導>				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	浅 利 尚 民
実 施 日	①平成30年6月2日 ②平成30年7月13日 ③平成30年7月30日 ④平成30年9月11日 ⑤平成31年1月26日 ⑥平成31年2月24日				
事業主催者（依頼元）	①RSK山陽放送 ②岡山県立玉島高等学校 ③山陽新聞社 ④全国一宮会 ⑤笠岡市教育委員会 ⑥林原美術館				
タ イ ト ル	①リンだとRiN太の土曜番長「石谷家文書について」 ②SSHの課題研究における指導・助言 ③明治維新 その時岡山は「岡山藩とその後の池田家」 ④「後楽園と岡山城の歴史について」 ⑤平成30年度笠岡市民大学教養講座「池田家の宝刀“大包平”」 ⑥特別講演会「手紙からわかる戦国時代―石谷家文書を読み解く―」				

所 属	人文科学部	職 位	教 授	氏 名	小 山 敬 一
実 施 日	①平成30年9月21日（金） ②平成30年10月24日（水）				
事業主催者（依頼元）	①株式会社 ラーンズ ②岡山県高等学校教育研究会 英語部会				
タ イ ト ル	①「スピーキング／ライティング指導を考える会」 ②岡山県高等学校教育研究会英語部会 秋季大会 第1分科会 「話すことの指導について/ 対話的な学びについて」 指導助言者				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	苺 米 一 志
実 施 日	①平成30年8月3日 ②平成31年3月24日				
事業主催者 (依頼元)	①大元公民館 (岡山市) ②学びの広場 岡山				
タ イ ト ル	①中世の古文書を読んでみる ②日本中世の絵巻物を読む				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	櫻 田 美 津 夫
実 施 日	①平成30年6月23日 ②平成31年3月28日				
事業主催者 (依頼元)	①備前郷土史研究会 (備前市市民センター) ②岡山後楽園ロータリークラブ				
タ イ ト ル	①「長崎・出島復元事業から学ぶこと」 ②「オランダ史入門」				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	井 上 あ え か
実 施 日	①平成30年6月13日 ②平成30年7月5日 ③平成30年7月13日				
事業主催者 (依頼元)	①国際化を進める岡山中央協議会 ②JETROアジア経済研究所 ③世界政経調査会 国際情勢研究所				
タ イ ト ル	①ガンディーに学ぶ平和学 ②パキスタン政治の動向 ③パキスタンにおける司法・政治・軍				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	准教授	氏 名	中 塚 朋 子
実 施 日	①平成30年6月10日				
事業主催者 (依頼元)	①岡山市市民協働局 女性が輝くまちづくり推進課 (さんかく岡山)				
タ イ ト ル	①ワールドカフェ 「男女の本音。リアルトーク ～男女の意識差を話し合おう～」				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博 文
実 施 日	①平成30年6月1日 ②平成30年6月7日 ③平成30年6月8日 ④平成30年6月14日 ⑤平成30年6月15日 ⑥平成30年6月22日 ⑦平成30年6月28日 ⑧平成30年6月29日 ⑨平成30年7月5日 ⑩平成30年7月6日 ⑪平成30年7月31日 ⑫平成30年8月2日 ⑬平成30年8月6日 ⑭平成30年8月20日 ⑮平成30年8月21日 ⑯平成30年8月23日 ⑰平成30年8月24日 ⑱平成30年8月27日 ⑲平成30年10月5日 ⑳平成30年10月12日 ㉑平成30年10月16日 ㉒平成30年10月19日 ㉓平成30年10月24日 ㉔平成30年10月26日 ㉕平成30年10月31日 ㉖平成30年11月2日 ㉗平成30年11月30日 ㉘平成30年12月7日 ㉙平成30年12月14日 ㉚平成30年2月13日 ㉛平成31年3月6日 ㉜平成31年3月7日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県小学校教育研究会赤磐支会算数部会研修会，赤磐市立山陽北小学校 ②真庭市立木山小学校 ③勝央町立勝央北小学校 ④津山市教育委員会，津山市立勝加茂小学校 ⑤浅口市立金光竹小学校 ⑥津山市教育委員会，津山市立東小学校				

	<p>⑦三重県桑名市立長島北部小学校 ⑧三重県桑名市立長島北部小学校 ⑨高梁市立玉川小学校 ⑩倉敷市立玉島小学校 ⑪赤磐市立山陽小学校 ⑫津山市学校教育研究センター算数部会，津山市立東小学校 ⑬三重県松阪市立阿坂小学校 ⑭三重県桑名市立長島北部小学校 ⑮三重県桑名市立長島北部小学校 ⑯笠岡市教育委員会，笠岡市教育研修所 ⑰津山市教育委員会，津山市立勝加茂小学校 ⑱高梁市立玉川小学校 ⑲真庭市立木山小学校 ⑳津山市教育委員会，津山市立勝加茂小学校 ㉑高梁市立玉川小学校 ㉒鏡野町立富小学校 ㉓岡山県数学教育会，岡山県小学校教育研究会， 津山市学校教育研究センター ㉔三重県桑名市教育委員会，三重県桑名市立長島北部小学校 ㉕三重県松阪市立阿坂小学校 ㉖桜が丘中学校ブロック研修会，赤磐市立山陽北小学校 ㉗赤磐市立城南小学校 ㉘浅口市立金光竹小学校 ㉙倉敷市立玉島小学校 ㉚赤磐市立山陽東小学校 ㉛高梁市立玉川小学校 ㉜桑名市教育委員会</p>
<p>タ イ ト ル</p>	<p>①研究授業の指導助言 ②研究授業の指導助言 ③研究授業の指導助言 ④研究授業の指導助言 ⑤研究授業の指導助言 ⑥研究授業の指導助言 ⑦研究授業の指導助言 ⑧研究授業の指導助言 ⑨研究授業の指導助言 ⑩研究授業の指導助言 ⑪講演「主体的・対話的で深い学びを実現する算数の授業づくり」 ⑫講演「魅力ある算数の授業づくり 算数科における主体的・協働的な深い 学びとは」</p>

- ⑬講演「算数の楽しさは「発見」と「創造」にある！新学習指導要領が求める授業とは」
- ⑭研究成果発表会に向けた学習指導案検討と指導助言
- ⑮研究成果発表会に向けた学習指導案検討と指導助言
- ⑯講演「新学習指導要領が求める算数の授業」
- ⑰研究授業に向けた学習指導案検討と模擬授業の指導助言
- ⑱研究授業に向けた学習指導案検討と指導助言，講話
- ⑲研究授業の指導助言
- ⑳研究授業の指導助言
- ㉑研究授業の指導助言
- ㉒研究授業の指導助言
- ㉓研究授業の指導助言
- ㉔講演「長島北部小学校の実践研究に学ぶ 主体的・対話的で深い学びを実現する算数科の授業づくり」
- ㉕研究授業の指導助言
- ㉖研究授業の指導助言
- ㉗研究授業の指導助言
- ㉘研究授業の指導助言
- ㉙研究授業の指導助言
- ㉚講話「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進～割合の学習に触れながら～」
- ㉛平成31年度算数授業研究会に向けての指導助言
- ㉜講演「指導主事に求められる資質と能力」

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 みちる
実 施 日	①平成30年4月22日 ②平成30年5月13日 ③平成30年8月17日 ④平成30年10月22日				
事業主催者（依頼元）	①日本臨床心理士会 ②岡山県臨床心理士会 ③岡山市教育研究研修センター ④瀬戸内市保健福祉部子育て支援課・健康づくり推進課				
タ イ ト ル	①「主な分野（教育）に関する課題と事例検討」公認心理師現認者講習会（於：岡山大学） ②「臨床心理士と倫理」岡山県臨床心理士会の新入会員オリエンテーション（於：岡山赤十字病院） ③「不登校の子ども達への理解と支援」岡山市教育研究研修センター：不登校児童生徒への支援に関する研修講座（於：岡山ふれあいセンター） ④「保護者への支援」発達障がい支援者研修第11回（於：福田保育園）				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	岡 田 信 吾
実 施 日	①平成30年4月27日 ②平成30年6月26日 ③平成30年7月13日 ④平成30年9月12日 ⑤平成30年10月18日 ⑥平成30年10月29日 ⑦平成30年11月10日 ⑧平成30年12月3日 ⑨平成30年12月17日 ⑩平成30年2月19日				
事業主催者（依頼元）	①倉敷市教育員会 ②岡山市教育委員会 ③吉備中央町立御北幼稚園 ④岡山県立鴨方高等学校 ⑤岡山県立操山高等学校 ⑥岡山県立勝間田高等学校 ⑦岡山県教育委員会 ⑧岡山県立鴨方高等学校 ⑨岡山市教育委員会 ⑩岡山県教育委員会				
タ イ ト ル	①新任特別支援教育コーディネーター研修				

	②新任特別支援教育コーディネーター研修講座 ③気になる子どもの見方、捉え方 ④嫌な気持ちになったとき（生徒対象） ⑤特別な支援が必要な生徒の理解と対応 ⑥特別な支援が必要な生徒の理解と対応 ⑦発達障害の理解 ⑧特別な支援が必要な生徒の理解と対応 ⑨通級指導教室事例検討会 ⑩発達障害のある子の親の思いと対応
--	---

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡 綾 子
実 施 日	①平成30年6月16日				
事業主催者（依頼元）	京都府臨床心理士会				
タ イ ト ル	応用行動分析を用いた気になる子どもの理解と支援				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	森 村 和 浩
実 施 日	①平成30年5月11日 ②平成30年5月25日 ③平成30年6月8日 ④平成30年9月1日 ⑤平成30年9月12日 ⑥平成30年11月8日				
事業主催者（依頼元）	①吉備創世カレッジ（大学コンソーシアム岡山） ②吉備創世カレッジ（大学コンソーシアム岡山） ③吉備創世カレッジ（大学コンソーシアム岡山） ④笠岡市ヘルスアップ推進会（笠岡市） ⑤福岡県体育研究所（福岡県教育委員会） ⑥福岡県体育研究所（福岡県教育委員会）				
タ イ ト ル	①カラダと脳に効く運動の科学 第1回：山陽新聞社本社ビル（岡山市） ②カラダと脳に効く運動の科学 第2回：山陽新聞社本社ビル（岡山市） ③カラダと脳に効く運動の科学 第3回：山陽新聞社本社ビル（岡山市） ④ぐるりんウォーク2018スタートイベント「ウォーキング健康法」： 笠岡市保健センター（笠岡市） ⑤運動を通じた鍛ほめプロジェクト訪問指導：中広川小学校（福岡県） ⑥運動を通じた鍛ほめプロジェクト訪問指導：伊岐須小学校（福岡県）				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	井 芹 聖 文
実 施 日	①平成30年5月19日 ②平成30年12月11日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立玉野高等学校 ②岡山県立岡山城東高等学校				
タ イ ト ル	①多感な思春期との付き合い方 ②自分で考える力：臨床心理学の観点から				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	塩 田 澄 子
実 施 日	①平成30年6月15日 ②平成30年8月10日～8月12日 ③平成30年8月22日～8月23日 ④平成30年10月10日 ⑤平成30年10月18日 ⑥平成30年12月6日 ⑦平成30年12月16日				
事業主催者（依頼元）	①特別養護老人ホーム旭水荘 ②日本薬学会 ③就実大学薬学部 ④就実大学学生課 ⑤就実学園こども園 ⑥ライフパーク倉敷市民学習センター ⑦島根県薬剤師会				
タ イ ト ル	①高齢者介護施設の感染症～注意すべきポイント～ ②第8回全国薬学生ワークショップ ③サマーサイエンスキャンプ「薬剤耐性菌（AMR）に挑む！抗菌薬適正使用に向けて」 ④食品衛生講習会 ⑤子育て講座「こどもの感染症と予防接種」 ⑥身近な感染症やウイルスについて学ぼう!! ⑦高校生セミナー				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	西 村 多 美 子
実 施 日	①平成30年8月23日				
事業主催者（依頼元）	①日本薬学図書館協議会				
タ イ ト ル	①医薬品医療機器総合機構が求めるデータの信頼性について				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	見 尾 光 庸
実 施 日	①平成31年2月25日				
事業主催者（依頼元）	①赤磐市立高陽中学校				
タ イ ト ル	①3年生対象放射線出前授業				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
実 施 日	①平成30年5月15日（岡山国際ホテル） ②平成30年8月22日（人と科学の未来館サイピア） ③平成30年9月27日（ポール・ボキューズ） ④平成30年10月20日（奉還町SGSG）				
事業主催者（依頼元）	①岡山いちごの会 ②人と科学の未来館サイピア ③おかやま観光コンベンション協会 ④NPOヘルスサイエンス地域国際センター				
タ イ ト ル	①やさしい星座と天文の話 ②天体観測ABC ③ASEAN-JAPANゲノム医療研究推進会議開催について ④iPS細胞とがん免疫治療				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡 辺 雅 彦
実 施 日	①2018年9月2日				
事業主催者（依頼元）	①新見市高尾公民館				
タ イ ト ル	①「大雨災害」と「天気図の見方」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
実 施 日	①平成30年6月30日 ②平成30年7月10日 ③平成30年7月19日				
事業主催者（依頼元）	①アンチ・ドーピング講習会（岡山県体育協会、岡山県空手道連盟） ②薬物乱用防止教室講師（岡山市立石井中学校） ③薬物乱用防止教室講師（岡山県立岡山東商業高校）				
タ イ ト ル	①アンチ・ドーピングについて ②薬物乱用防止について ③薬物乱用防止について				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	田 坂 祐 一
実 施 日	①平成30年8月11日 ②平成31年1月17日				
事業主催者（依頼元）	①日本医療薬学会 ②岡山県病院薬剤師会				
タ イ ト ル	①薬剤師による薬学的介入から得られる医療経済効果の推算 ②薬剤師が実践する患者安全あれこれ ～医療安全管理部門での専従薬剤師の経験を通して～				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	杉 山 慎 策
実 施 日	①平30年11月14日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県中小企業団体中央会				
タ イ ト ル	①リーダーシップ論あれこれ				

所 属	経営学 部経営学科	職 位	教 授	氏 名	杉 山 慎 策
実 施 日	①平成31年1月27日				
事業主催者（依頼元）	①岡山ロータリークラブ				
タ イ ト ル	①高校生のための山田方谷セミナー				

所 属	経営学科	職 位	教 授	氏 名	林 俊 克
実 施 日	①平成30年4月17日 ②平成30年11月19日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立岡山操山高等学校 ②岡山情報文化研修所				
タ イ ト ル	①1年宿泊研修基調講演「グローバル社会で生きること」 ②一歩先行くマーケティング（行動経済学の応用）				

所 属	経営学部 経営学	職 位	准教授	氏 名	真 田 正 次
実 施 日	①平成30年10月31日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立大学地域共同研究機構 COC+推進室				
タ イ ト ル	①「10年後の会社を考える」経営者支援セミナー（第1回）：事業承継と経営分析				

所 属	経営学部	職 位	講 師	氏 名	加賀美 太 記
実 施 日	①平成30年10月2日				
事業主催者（依頼元）	①京都生協虹の会日配部会				
タ イ ト ル	①コープ商品の歴史的な位置づけと現在のPBを取り巻く消費環境				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	寺 前 俊 孝
実 施 日	①平成30年10月31日				
事業主催者（依頼元）	①株式会社さんぼう（訪問先 香川県立高松桜井高等学校）				
タ イ ト ル	①経済学と経営学の違い、研究と調べ学習の違い、高校生ができる研究について、身近なところにある研究テーマについて				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
実 施 日	①平成30年8月18日 ②平成31年2月22日				
事業主催者（依頼元）	①就実短期大学潜在保育士復職支援プロジェクト ②岡山市保健所				
タ イ ト ル	①乳児保育 ②赤ちゃんの発育発達に合わせた関わり方・遊び方				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
実 施 日	①平成30年5月26日（土） ②平成30年5月26日（土）・5月27日（日） ③平成30年5月26日（土） ④平成30年8月19日（日） ⑤平成30年9月8日（土） ⑥平成30年9月9日（日） ⑦平成30年10月14日（日）				
事業主催者（依頼元）	①東京都、アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会 ②東京都、アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会 ③東京都、アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会 ④和歌山県・一般財団法人 和歌山県文化振興財団（和歌山県立近代美術館） ⑤津奈木町、つなぎ美術館、ぼくのおくさん☆プロジェクト実行委員会 ⑥津奈木町、つなぎ美術館、ぼくのおくさん☆プロジェクト実行委員会 ⑦津奈木町、つなぎ美術館、ぼくのおくさん☆プロジェクト実行委員会				
タ イ ト ル	①ワークショップ「賢者の道 2000年後をローラーで発掘しよう!」の講師				

	②ワークショップ「勇者の砂丘 2000年後を砂場で発掘しよう！」の講師 ③ワークショップ「勝者の館 2000年後を占おう！」の講師」の講師 ④ワークショップ「2000年後の和歌山を発掘しよう！」の講師 ⑤アーティストトーク「ぼくのおくさん☆柴川敏之展 PLANET HOME」 ⑥トークセッション「アートで迫る夫婦新悲喜劇！」の講師 ⑦トークセッション「ESDカフェ in つなぎ 未来のHOME - 暮らし・コミュニティ・地球 - を語る」
--	--

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	秋 山 真理子
実 施 日	①平成31年2月16日				
事業主催者 (依頼元)	①笠岡市教育委員会 平成30年度笠岡市民大学教養講座				
タ イ ト ル	①童謡を歌いましょう				

所 属	幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	荊 木 まき子
実 施 日	①平成30年7月12日 ②平成30年8月2日				
事業主催者 (依頼元)	①大阪教育大学連合教職大学院 ②大阪教育大学				
タ イ ト ル	①社会的包摂のための教育の実践的探究 スクールカウンセラーお仕事紹介 ②免許更新講習 学校における心理・福祉領域からの教育協働				

所 属	就実短期大学 生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	岡 本 己恵子
実 施 日	①平成30年12月13日 ②平成31年2月9日				
事業主催者 (依頼元)	①倉敷市教育委員会 ②笠岡市中央公民館				
タ イ ト ル	①免疫力を上げる料理講座 ②身近な食品の色とはたらき				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	加 藤 美奈子
実 施 日	①平成30年7月27日 ②平成30年9月8日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県高等学校教育研究会 学校図書館部会備前支部協会 ②赤磐市教育委員会熊山分室				
タ イ ト ル	①あの「文豪」はどのような書簡を書いたのか —倉敷市所蔵「薄田泣菫文庫」所収書簡をめぐって ②与謝野寛（鉄幹）・晶子 岡山への旅と歌				

所 属	生活実践科学科	職 位	講 師	氏 名	小 田 奈緒美
実 施 日	①平成30年6月7日～8日 ②平成30年6月23日 ③平成30年8月22日～平成29年8月23日 ④平成31年1月25日				
事業主催者（依頼元）	①国民生活センター ②岡山市立浦安小学校 ③岡山市市民協働局 ESD 推進課 ④岡山市立操南公民館				
タ イ ト ル	①平成30年度【新設】消費者教育に携わる講師養成講座[応用コース] 中学生・高校生を対象とした消費者教育講座の提案 ②子どもたちに夢を。可能性は無限大。 ③いきものフェスタ ④公民館主催講座「寿大学」社会を変える節約				

所 属	総務部 施設課	職 位	課 長	氏 名	野 村 照 代
実 施 日	①平成30年6月23日（土） ②平成30年7月28日（土）				
事業主催者（依頼元）	①岡山キャリア教育支援ネット（SNECO） ②就実こども園				
タ イ ト ル	①「失敗しない就活・インターンシップのマナー講座 5th —秘書検定一級資格者によるセミナーと実技指導—」 ②「職場のマナー&レジリエンス—感じよくしなやかに—」				

『地域と歩んだ就実の軌跡—地域貢献報告書』

第 11 号

2019 年 6 月 25 日

発 行 就実大学・就実短期大学 地域貢献委員会
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原 1-6-1
Tel (086) 271-8111 (代)

発行責任者 地域貢献委員長 柴田 隆司

印 刷 株式会社プリント・ケイ